

在日台灣作家李琴峰《独り舞》與《獨舞》的自我翻譯
—以與賴香吟《其後それから》的互文性為線索—

謝惠貞

文藻外語大學日文系 副教授

摘要

本文首先以翻譯理論為基礎，分析李琴峰日文原作《独り舞》與作者「自我翻譯」的中文版《獨舞》的差異。為了解釋「自我翻譯」中的增補、刪減、改寫之含意，參照作者自言受其影響的賴香吟的《其後それから》，極具意義。由於可以推斷中文版的讀者主要設定以台灣讀者為主，因此納入 H.R.Jauss 的「期待的地平線」此一接受研究之觀點，並進一步探討兩部作品的互文性。藉以闡明「自我翻譯」對於成為台灣 LGBT 小說經典的邱妙津的作品及其死亡的再詮釋和對台灣做為作品舞台的重視。

關鍵詞：自我翻譯、性別認同、賴香吟《其後それから》、互文性、期待的地平線

受理日期：2022 年 03 月 10 日

通過日期：2022 年 05 月 13 日

DOI: 10.29758/TWRYJYSB.202206_(38).0010

**The Self-translation of *Hitorimai* and *Solo Dance* by
Li Qinfeng, a Taiwanese-Japanese writer: Following
the Intertextuality of Lai Xiangyin's *Sorekara***

Xie, Hui-Zhen

Project Associate Professor, Department of Japanese Language,
Wenzao Ursuline University of Languages

Abstract

Based on translation theory, this thesis aims to analyze the differences between *Hitorimai* and its Chinese translation *Solo Dance*, which were both written by Li Qinfeng herself. In order to explain the meaning of addition, omission, and adaptation in “self-translation”, it is of great significance to study Lai Xiangyin's *Sorekara* by which Li claims to be influenced. Given the fact that the audience of the Chinese version are Taiwanese readers, H. R. Jauss' “horizon of expectation” is hence taken into consideration when doing the reception studies so as to explore the intertextuality of the two books. In sum, this thesis tries to illustrate the emphasis that self-translation has put on the reinterpretation upon death and Chiu Miao-Chin's classic LGBT-themed novels, as well as that Taiwan is taken as the stage for the story.

Key words: self-translation; gender identity; Lai Xiangyin's
Sorekara; intertextuality; horizon of expectation

在日台湾人作家李琴峰『独り舞』と『獨舞』における自己翻訳—頼香吟『其後それから』との間テクスト性を手掛かりに—

謝 惠 貞

文藻外国語大学日本語学科 准教授

要 旨

小論では、まず翻訳理論に基づいて、李琴峰の日本語での原作『独り舞』と、作者が「自己翻訳」した中国語版『獨舞』との差異を分析する。その自己翻訳における補足、省略、書き換えの意味を解釈するには、作者自身が影響を受けたと述べている頼香吟の『其後それから』と併せて参照する意義が大きい。中国語版の読者としては、主に台湾読者を想定していると推察されることから、受容研究における H.R.ヤウスの「期待の地平」という視点を取り入れ、さらに、両作の間テクスト性を論じることにより、「自己翻訳」における台湾の LGBT 小説の古典となった邱妙津の作品とその死への再解釈や作品の舞台である台湾への重視についても明らかにした。

キーワード：自己翻訳、ジェンダー・アイデンティティ、
頼香吟『其後それから』、間テクスト性、期待
の地平

在日台湾人作家李琴峰『独り舞』と『獨舞』における自己翻訳—頼香吟『其後それから』との間テクスト性を手掛かりに—

謝惠貞¹

文藻外国語大学日本語学科 准教授

1. はじめに

在日台湾人作家の李琴峰は、2017年に「独舞」で群像新人賞、2021年に『ポラリスが降り注ぐ夜』で芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した後、ついに2021年上半期に『彼岸花が咲く島』で、台湾人作家としてはじめての芥川賞を受賞することになった。近年日本と台湾で注目を浴びている作家である。東山彰良や温又柔といった他の在日台湾人作家とは異なり、第二言語である日本語を創作言語としており、言語上の越境能力の高さを示している。デビュー作「独舞」（『群像』2017年6月号、単行本は『独り舞』と改題し、2018年講談社より刊行）では、台湾で育ったヒロインが、自身の性的指向の探求、同性愛の恋愛や破綻、異性愛者からの差別や性的暴行、異国の地・日本への出奔、新たな連帯感の模索や挫折などを経て、オーストラリアで国際的なプライドパレードに参加した際に、自殺を図るが、かつての恋人との偶然の出会いによって救われる過程が一人称で描かれている。その後、自身で翻訳した中国語版『獨舞』（聯合文學、2019年）を発表した。

小論では、まず翻訳理論に基づいて、原作『独り舞』と作者が「自己翻訳」した中国語版を比較することにより、2つの

¹ 本稿は、2021年5月30日、オンラインで開催された日本台湾学会で口頭発表した内容を加筆、修正をおこなったものである。また、投稿の際、2名の査読者から多数の貴重なご助言をいただいた。なお、本成果の一部は台湾科技部「學術獎補助計畫（MOST 109-2410-H-160-007 -）」の助成を受けたものです。ここに記して合わせて感謝の意を表したい。

テキストの類似点と相違点を考察する。また、『独り舞』から中国語版『獨舞』への自己翻訳の意味を解釈する。ここでの「自己翻訳」とは、「自分自身の著作を他言語に翻訳する行為と、その行為の結果生まれた成果の両方」²を指している³。以下、日本語版『独り舞』と中国語版『獨舞』両方を指す場合は、「本作」と称する。

自己翻訳を分析した結果を解釈するには、作者自身が影響を受けたと述べている頼香吟の『其後それから』と併せて参照する意義が大きい。台湾読者には日本語による台湾同性愛文学だと認識されていることから、読者の受容の重要性を説いた H.R.ヤウスの名著『挑発としての文学史』における「期待の地平」⁴という視点を取り入れ、さらに、両作の間テキスト性を考察したい。

2. 自己翻訳のテキスト比較

2.1 補足箇所に見る「背景の詳細」と「言外の意(implication)」

以下の分析は、『獨舞』の中国語と日本語のテキストを比較し、表 1「自己翻訳の日中テキスト表」にまとめたものである。表の中で、類似点や相違点にはマーカーを引いた。ただし、以下では、簡明を期すため、新たに追加したり、書き換えたりした場合には、中国語の引用のみを記述する。また、日本語のテキストの記述が中国語のテキストにおいて省略されている場合には、日本語の引用のみを記述する。また、明晰性を高めるため、2.1 と 2.2 と 2.3 の下位項目を太字と下線で、各項目の小結を太字で表示する。自己翻訳による変化が

² モナ・ベイカー、ガブリエラ・サルダーニャ編 [藤濤文子監修・編訳、伊原紀子、田辺希久子訳] 『翻訳研究のキーワード』研究社、2013 年 9 月、203 頁)

³ もちろん、日本語原文の執筆それ自体が「自己翻訳」のプロセスを経ているのではないとも考えられるが、それはテキスト全般に掛かる広義的なものであり、センテンスレベルで論じにくいから、研究対象から外す。

⁴ H.R.ヤウス著・響田収訳『挑発としての文学史』(岩波書店、2001 年 11 月)、40 頁。H.R.ヤウスは「新しいテキストは、読者(聴き手)に対して、それより前のテキストで親しんでいた、さまざまな期待とゲーム・ルールを呼びおこす」と説明している。詳しくは小論の 3.1 を参照されたい。

認められる箇所は網掛けで表す。

2.1.1「背景の詳細」の補足は、A時間（13箇所）、B場所（4箇所）、C数量（7箇所）、D程度（38箇所）、Eその他背景の詳細（113箇所）に細分でき、計175箇所ある。

A時間（13箇所）の中で注目すべきは、「20年過去了，誰也不得而知。（42頁）」、「對當時的她而言（53頁）」、「耗費了10年，她有種預感，覺得自己終於寫得出來了。（215頁）」などで、マーカー部分は共通の傾向が見られる。つまり過去と現在を行き来することでその時間の長さを測り、20数年の人生で、この作品の執筆に10年を費やしたことを強調している。

B場所（4箇所）は、それほど多くはない。「主修心理學的她，甚至還在心輔中心擔任過輔導員（41頁）」、「她漫無目的地走在舊金山市街上，隨意地看著周遭的風景。（170頁）」で、邱妙津が働く場所は台大の心理輔導センターで、自殺するために旅に出たのがサンフランシスコであったことを補足している。

C数量（7箇所）は、半個頭（48頁）、五行日文（159頁）などで、特徴にはあまり一貫性がない。

D程度（38箇所）を強める補足には、ポジティブな面とネガティブな面がある。興味深いことに、「那語言她若用點力去聽應該是能聽懂的（200頁）」などでは無力感が強められている。そして、彼女は常に心のどこかで、すべてを平等に導き、同時にすべての傷を癒すことができると考えている。「除了死亡再無其它（20頁）」など、完全な死への憧れを強めている。

E背景の詳細（113箇所）の補足では、「違う。《しか》という能動性の欠如した表現を使わないでほしいな（15頁）」は「差多了，請不要用《只能》這種缺乏能動性的字眼來描述我的性取向行嗎？（30頁）」と訳されており、単に会話の背

景を補足している。

つまり、表 1「自己翻訳の日中テキスト比較表」の補足箇所は、時間、場所、数量、その他背景の詳細、程度、専門用語、言外の意に分類できる。これは他人に翻訳を頼んでは付け加えることができないディテールである。李琴峰は中国語に翻訳する際、基本的には小説のプロットに忠実であるが、上述したような補足箇所に関しては、翻訳の範疇を超えていることがわかる。また、新たにもう一つのテキストを創作したとも言える。

このことから、作者は自己翻訳を通じて、同じ小説の原作となった場面を再訪し、記憶を振り返って同じ出来事を再解釈しようとしている。また、「程度」や「専門用語」などの補足例も多く、「自己翻訳」という行為が物語に深みを与えていると言える。

2.1.2 言外の意の心理投影と文化翻訳

表の「F 言外の意」を分析すると、李琴峰は多くの「F-1 の心理・感情の投影」に補足をしているが、小説の舞台である台湾の言語的脈略への補足も多いことがわかる。これは、台湾の文化を翻訳しすぎて読みづらくなならないよう、日本語の原文では省略されたためと考えられるが、その結果省略された脈略や、復元または追加された部分、原文の日本語の文脈での言葉遊びや日本文学の引用は、自己翻訳をした後、中国語読者のために補足された「F-2 文化翻訳」である⁵。

「F-1 心理・感情の投影」の補足は、計 77 項目あり、これは、背景の詳細の補足に次ぐもので、中国語訳の特徴と捉えていだろう。数が多いため、ここでは項目別に見えてくる一部の特徴を列挙して説明する（表 1 参照）。

⁵ クリフォード・ギアツ (Clifford Geertz, 1973) によって、「特定の文化の「意味」を解釈し、それを他者へ伝達する」ことであるとされる。Clifford Geertz, *The interpretation of cultures*, New York : Basic Books, 1973, p.5/p.452。

足された黄色のマーカ一部分を分析すると、「リエ」にはローマ字と漢字が補足されている。実際は命名の時点で、異言語間の普遍性が考慮されている。

また、「君がため惜しからざりし命さへ、長くもがなと思ひけるかな。不思議だね、薫ちゃんと一緒にいると、まだ死にたくないと思えるの（83頁）」を「「憶往日兮生何惜，為逢紅顏命可拋，今為君故兮欲遐期。」她想起曾讀過的這首和歌，便順口念了出來。「真不可思議，只要在妳身邊，我就會覺得還想活下去。（103頁）」と訳し、和歌を『詩経』の語調で訳すことで、中国語の読者が文体の美しさを実感できるようにしている。また、「這首和歌」を使って、原著の中で和歌の形式が用いられていることを補足説明し、読んでいて矛盾を感じないようにしている。台湾大学で中国語と日本語を専攻した李琴峰の文学への造詣が、遺憾なく発揮されている。

「「それ、告白？」「《くたばってしまえ》ふうに言われても嬉しくないか」（83頁）」を「「妳是在告白嗎？」她問。據說日本作家二葉亭四迷將英文「I love you」翻成「死了也無妨」。「被名叫《見鬼的去死吧》的人這樣講，也開心不起來對吧。」小薰笑著說。據說二葉亭四迷這筆名，正是取「見鬼的去死吧」的日語諧音。（104頁）」と訳し、作品の登場人物が、それが日本文学を典拠とした告白だと思ふ理由を説明している。

したがって、「F-2-1 日本及び日本語の文化翻訳」の補足は、主に台湾と日本の言語、文学、文化などの注釈に集中している。「F-2-2 台湾の文脈の詳細を補う文化翻訳」は、計13箇所あり、例えば、「体罰や恫喝・罵倒は毎日のように行われ、テストの点数が悪いと（「悪い」の定義は概ね、百点満点中九十点に至らないことを言う）鞭で掌を叩かれる。（30頁）」は、中国語訳では、「訓導主任和各科教師高高在上，對學生的身體進行著絕對的支配，校園中每天都能看到有人在青蛙跳、

鴨子走（當然真正的青蛙鴨子半隻也沒有），或是在訓導處前挨罵挨板子，考試一個不小心考差了（所謂「考差」的定義，就是考不到 90 分・滿分 100）就得吃一頓竹筍炒肉絲。（46 頁）」と変わってる。台湾のキャンパス文化の詳細を多数補足しており、生徒を支配する指導主任や各科の教師や、青蛙跳、鴨子走、竹筍炒肉絲などの具体的な体罰の名称は、いずれも台湾の読者の心に響きやすい。

「個人の苦悩は政治とは決して切り離せないということを、邱妙津はよく分かっていた。もしプライドパレードが発足した 2003 年まで生きていたら、きっと彼女はセクマイ運動の旗振り役になってたと思う（62 頁）」を「但她很清楚個人苦悩與大環境的政治是無法進行切割的。如果邱妙津活到台灣同志遊行開辦的 2003 年，肯定會成為性少數運動的旗手。（81 頁）」と訳し、台湾の著名なレズビアン作家である邱妙津が住む台湾の環境の変化を特に強調している。

要約すると、李琴峰の「F-2-2 台湾の文脈の詳細を補う文化翻訳」では、台湾のキャンパスや社会から受けた規制について説明する箇所が、補足された文化翻訳の中で最も大きな割合を占めている。

2.2 省略が暗示する「原作への忠実性」と「舞台台湾の重視」

「G 背景の詳細を省略する」の省略は、計 5 箇所あり、中国語で背景の詳細が省略されている部分にマーカーを引いた。「しかし世の中には何の意味も無く、ただ起こってしまった、そういうことだってある。（39 頁）」などで、省略されているのは場所や時間、そして全体に影響のない背景の詳細のみである。

次に、「H もともと中国語で説明が省略」は、計 3 箇所、以下のマーカーを引いた 3 箇所のみである。1 つ目は、「「おじさん」の意味の「小叔」と発音が似ているから（14 頁）」

を「但由於「小書」與「小叔」音近（29頁）」と訳す過程で、「中国語がわかる人」を意識し、また、「小叔」はもともと中国語なので、原作の「おじさん」という注釈を削除している。2つ目は、「台湾の音楽ユニット・F.R.I.の曲「刺鳥」を予約した。（18頁）」を省略して、「點了飛兒樂團的〈刺鳥〉。（34頁）」と訳している。3つ目は、「「《内離》——内なる疎外」（162頁）」を「「内離。」（192頁）」と訳し、いずれも解釈を省略した。

つまり、Gは5箇所、Hは3箇所のみである。中国語の翻訳では、原文の叙述をほとんど省略せず、かなり忠実に再現している。その多くは、もともと中国語の語彙や背景の詳細など、プロットの展開に関係のない部分を省略しているだけで、例えば、単純に中国語の語彙であるため、翻訳する必要がない「小叔」「台灣樂團」「内離」のみである。そして、その合計を比較すると、背景の詳細の補足175箇所と比べて非常に少なく、わずか8箇所のみで、およそ22分の1に過ぎない。

2.3 書き換えで漏れる「典故と比喩の多さ」と「同化傾向」

「I 成語、故事、慣用句」は、計 43 箇所ある。 例えば、「同病相憐（22頁）」「甜美幽香（35頁）」などである。要するに、書き換えではあるが、意味に大きな違いはなく、中国語の修辭的美学への「同化」となる。直訳ではなく、成語を多用している。

「J 比喩」は、計 27 箇所ある。 「カウンセラーの先生が彼女の心に踏み込もうとし（20頁）」を「心理諮商師幾番試圖撬開她重重上鎖的心扉（36頁）」と訳し、中国語でよく使われる比喩を用いて、自分の心を閉ざすことを例えている。

「気付いたら彼女が自ら命を閉じた 26 歳という峠をも越えていた。（25頁）」を「但轉瞬間她竟已活過邱妙津闔上自

身生命之書的，名為 26 歲的山嶺。(41 頁)」と訳し、邱妙津の人生を本に例え、台湾のレズビアン文学の古典における彼女の地位と呼応させている。

「絶望に埋没した時でも(40 頁)」を「即使是埋没在绝望泥沼裡的此時(56-57 頁)」と訳し、絶望を新たに泥沼に例えている。

「けれどもラブ・アンド・ピースとか、イット・ゲッツ・ベターとか、それら心が躍るような聞こえの良いスローガンは悉く、彼女には現実味が感じられなかった。(60 頁)」を「然而不論是 love and peace 或是 it gets better, 這類中聽得使人心生雀躍的口號，在她聽來全都像隔著一面牆般，不具任何現實感。(79 頁)」と訳し、東京でプライドパレードに参加しても、異性愛者の男性に性的暴力を受けた記憶に囚われている主人公の様子を表現している。また、「是否性取向的烙印，就是她所有不幸的根源？(78 頁)」は、彼女が長い間苦しめられてきたことを描写している。

「醜い男の顔もぼんやりしていった。(58 頁)」を「就連那醜陋男子的臉都糊成一片歪斜的抽象畫。(76 頁)」と訳し、記憶の曖昧さを「抽象画」で例えている。

「過ごし方としては極めて普通だったが、それでも薫と一緒にいると、「幸せ」という言葉が頻りに脳裏を過るのだった。(82 頁)」を「就像天下所有的戀人一般享受著平凡的兩人時光。待在小薰身邊，「幸福」這個字眼就不斷掠過她的腦海，使她痴醉。(102 頁)」と訳し、異性愛者のカップルとの比較を意識するという比喩を追加している。

「薄れていたはずのあの夜の光景がまた鮮明に甦り、彼女は思わず薫の手を払い除けた。(86 頁)」を「那個夜晚窄巷的風景，她以為早已在大海彼岸褪色的記憶重又鮮明地甦醒，蒙太奇般突如其來的回憶之流使她反射性地拍開了小薰的手。

(108 頁)」と訳し、前述の類似した比喩に続き、李琴峰は中

国語に翻訳する時に、記憶の海を振り返って、探索を続けていると考えられる。

「もとよりネットでできた繋がりだから、その気になればいとも簡単に断ち切れる。(119頁)」を「她與小薰本就是浩瀚網海裡偶然相識的兩人，彼此回歸到自己的世界，緣分的絲線說斷即斷。(145頁)」と訳し、同じように海を人間関係の偶然性や困難さの比喩として使い、さらに運命の糸という表現を追加して、伝統的な縁結びの赤い糸に対する信仰をイメージさせている。

このように、原文にない「J比喩」の書き換えは、穴、壁、シロアリ、泥沼、深海、隕石、宇宙の辺境など 27箇所あり、小説の主旨が「歪んだ抽象画」や「縁の儚さ」であることを示唆しており、疎外感や不確実性に満ちた心の状態を例えている。

「K中国語と日本語の同じ情景に対する異なる表現習慣（意識）」は、64箇所ある。それらのほとんどが、日本語の原文の単語の置き換えや、中国語の文脈に合った表現への言い換えである。例えば、「もし彼女の日本語力が狂っていなければ、今の絵梨香の言葉には確かな嫉妬と皮肉が含まれているはずだ。(43-44頁)」を「如果她的日語能力沒有失常，還值得信任的話，那她從繪梨香的話語裡聽出的嫉妒與諷刺，就是確確實實存在的。(61頁)」と言い換え、主人公の言語的な越境能力を明らかにしている。

「ネットで知り合った人とすぐに会いたくなるような性格ではないので、(中略)1か月ほどしてやっと薰から誘われ、2人で一緒に美術館に行くことになった。(79頁)」を「她與小薰都不是那種過慣了速食文化(中略)過了約莫1個月後,小薰邀她一起去逛美術館，她們才第1次見面。(98-99頁)」と言い換え、2人の性格と最初の出会いについて明らかにしている。

「彼女としては、そもそも結婚できないのだから「有り得

ない」と断じるのが当たり前なのだが (43 頁)」を「對根本無法結婚的她而言, 當然沒有「結婚就得辭工作」的道理 (60 頁)」と言い換え、文章の主旨を明らかにしている。

まとめると、「**K** 中国語と日本語の同じ情景に対する異なる表現習慣 (意識)」は、意識の範疇であり、意味の変更は見られない。しかし、翻訳学者のヴェヌティが提唱した概念に基づいて翻訳戦略を分析すると、「同化」の傾向が「異化」の傾向よりも明らかに大きいことがわかる。

最後に、書き換えの中の「**L** 意味の変更」は、計 2 箇所ある。その中の 1 つは、かなり深い意味を持っている。「いや、死にたいと思ったことなんて一度も無いよ。少なくとも小雪と出会ってからは。ただ何となく、長生きできないだろうなあと、心のどこかで思ってるだけ」 (50 頁)」を「我可從沒想死過, 充其量只是想著死而已。至少, 在認識妳之後都是這樣。」她回答道, 「不過我心中總有一種感覺, 覺得自己大概是長命不了的。(68 頁)」と訳している。

つまり、この意味の書き換えによって、「死ぬ (死)」という言葉から始まる『獨舞』に大きな影響を与え、邱妙津が死に向かうこと、つまりその背後にあるレズビアンの経験を受け継いで描写している。しかし、パートナーを得てすべてがうまくいっている状況で、「せいぜい死を考えているだけ」と表現が弱まっており、中国語訳では「生」に対する意志が強くなっていると言える。

書き換えについて総じて言えるのは、同じ意味を表現する、中国語と日本語のレトリックの違いが明らかな場合、李琴峰は中国語のロジックに従って、異言語を同化することを選択しているということである。

3. 頼香吟『其後それから』との間テクスト性

3.1 台湾読者の「期待の地平」

表1の統計からわかるのは、中国語版の小説の本文延べ196頁のうち、原作の意味を変えていない「K 中国語と日本語の同じ情景に対する異なる表現習慣（意識）」の64箇所を除くと、「A 時間」が13箇所、「B 場所」が4箇所、「C 数量」が7箇所、「D 程度」が38箇所、「E 背景の詳細」が113箇所、「F-1 心理・感情の投影」が77箇所、「F-2 文化翻訳」が24箇所、「G 少背景の詳細」が5箇所、「H もともと中国語で説明が省略」が3箇所、「I 成語、故事、慣用句」が43箇所、「J 比喩」が27箇所、「L 意味の変更」が2箇所、合計356点の補足、省略、書き換えが行われている。つまり、全196頁の中国語版では、約1.8頁に1つの割合で存在している。このことから、中国語訳は『獨舞』のもう1つのテキストであると言え、日本語原文よりも台湾社会の事情などでの実体験と心境の投影が追加されている。では、なぜこれほども存在するのであろうか。

日本語で書くことによって、李はいったん記憶から距離を置いたが、中国語訳によって、再度台湾での経験を見つめ直して、詳細を補足していると推知できる。何度もログインした後、中国語のテキストを通して記憶を振り返っていることが窺える。表1の中国語と日本語のテキスト比較から、作者はトラウマなどの感情の程度をレトリックで高めていることがわかる。そして、背景の補足は、例えば「記憶中小雪如此是頭一遭（95頁）」のように、時間や空間に関する具体的な説明や、心理や感情の投影が大部分を占めている。

中でも注目すべきなのは、中国語訳では意味が変更されている「L」で、これは非常に重要である。『獨舞』で探求された「死」というテーマは、邱妙津の「生」と「死（自殺）」との対話、あるいは対話の延長線上にあるものと言える。

作者は中国語版の序文で、本作の創作にあたり最も影響を受けた作品の一つとして、邱妙津の自殺後にその遺品を管理

し、また、台湾文壇における邱の死や台湾読者に記憶される心境を語った頼香吟の『其後それから』を挙げている。

李琴峰は取材に対し、「主人公の趙紀恵は、「災難」に憧れを抱いているものの、恋人の死に直面すると、やはり苦しみを乗り越えられず、結局は独り舞することしかできない」⁶という描写をしたと述べている。また、「彷徨う過程は死に近づいているように思えるが、自虐的な行為は同時に癒しにもなる」⁷とも言っている。

これを受けて言うならば、邱の自死やその作品『ある鰐の手記』『モンマルトルの遺書』よりも、彼女に遺作の整理を頼まれた頼香吟が『其後それから』に記した邱に死なれた生存者の心境変化が、本作の構造により大きく反映されている。また、この間テクスト性は台湾読者が日本読者よりも理解可能であると想定した前提で、中国語版でニュアンスを調整したと考えられる。

秋草俊一郎『ナボコフ 訳すのは「私」—自己翻訳がひらくテクスト』の方法で、李琴峰の自己翻訳を分析すると、李は中国語の「I」の熟語や、中国語の表現に従う「K」を多用し、「同化」戦略を採用していることも、「期待の地平」への接近だと理解できる。

秋草が指摘するように、ナボコフがロシア語の表現を英語に取り入れたことが、一種の「Exophony」、「治外法権」⁸であるとすれば、この現象は「特権的な翻訳者」である李琴峰の自己翻訳にも見受けられる。

これを踏まえて、中国語の読者向けのもので、24箇所追加されている表1の「F2文化翻訳」を考えたい。台湾の読者にはすでに知られている「F-2-2台湾の文脈の詳細を補う文化翻

⁶ 李琴峰(2019.9.24)「台湾旅日作家李琴峰の一場獨舞：讓生命傷口癒成角色的模樣」『太報』、<https://www.taisounds.com/People/Story/uid4975317736> (2021.4.1 確認)

⁷ 同上。

⁸ 秋草前掲書、286頁。

訳」は 13 箇所、あまり馴染みのない「F-2-1 日本及び日本語の文化翻訳」の 11 箇所よりも多く、その 11 箇所は、言語的な側面や文学的な引用の説明をしたものである。この現象は、作者の自己翻訳が、日本で受賞した後に、台湾の読者に評価を求める一種の凱旋的な行為であることを示している。

H.R.Jauss によると、「期待の地平」は、読者がある作品を読む時に、それまでに読んだ同種のテクストの経験が喚起されるため、一種の「間テクスト性」(intertextuality) 作用を持っている⁹という。

李琴峰は「台湾旅日作家李琴峰の一場獨舞：讓生命傷口癒成角色的模樣」の中で、「日本はジェンダーの面ではまだまだ……日本には「LGBT 文学」というカテゴリーもなく、発展途上である」¹⁰と述べている。比較すると、台湾の LGBT 文学はさらに発展している。また、その理由に考えられるのは、台湾の読者は、当然ながら台湾文化をよく理解しているため、中国語版への「期待の地平」がより高く、李がそれに応えようと、台湾の文脈の詳細を補足する文化翻訳をより多く行ったと考えられる。

『獨舞』の刊行後、尹荷風が「台湾同性愛文学を継承する」¹¹と称賛し、林孟寰が「台湾同性愛文学のために異なる可能性を切り開いた」¹²と評価した記事が発表されたことから、その期待の高さが伺える。学者の楊佳嫻は本作を「日本文学の一部で、台湾文学の外延」¹³と見なしている。

また、李自身も、女性同性愛作家というレッテルを貼られ

⁹ H.R.ヤウス著 [轡田収訳] (2001)『挑発としての文学史』東京：岩波書店、40 頁。

¹⁰ 原文は「日本在性別這塊還有很長一段路要走，……更別說是 LGBT+等性少數族群」。李琴峰前掲記事「台湾旅日作家李琴峰の一場獨舞：讓生命傷口癒成角色的模樣」より。

¹¹ 尹荷風 (2019.2.13) 「承繼台灣同志文學，日本群像新人獎得主李琴峰，攜《獨舞》與讀者見面」『open book』<https://www.openbook.org.tw/article/p-36792> (2022.3.8 確認)

¹² 原文「為台灣同志文學開創不同的可能性」。林孟寰 (2019.3.10) 「李琴峰《獨舞》：一則海漂世代的同志青春物語」『聯合文學 unitas 生活誌』<https://www.unitas.me/?p=7131> (2022.3.5 確認)

¹³ 原文「是日本文學的一部分，也不妨視為台灣文學的外延。」李琴峰『獨舞』聯合文学、2019.2、12 頁。

ることについて感想を聞かれた際に、「もしもそれが作品の世界や作家をよく理解するためなら、レッテル貼りやネーミングをしてもいい」¹⁴と語って反応している。

以上の分析を通じて、移民作家としての李琴峰は、「ディアスポラ・オブ・アジア」の中で「隔たり感」¹⁵について言及しているが、言語能力の非対称性によって形成される「階層性」をしばしば意識していることがわかる。しかし、中国語版になると、李琴峰は目標言語に「同化」する傾向が強い。彼女は、言語的な「階層感」よりも、ジェンダー・アイデンティティの「階層性」の非対称性に敏感であると言える。

3.2 頼香吟『其後それから』との間テクスト性

では、具体的に頼の作品との間テクスト性がいかに『獨舞』の自己翻訳の傾向に影響を及ぼしたのかを論じたい。劉靈均はかつて「本作は邱妙津の自死に関する語りを中心に物語を展開したが、物語の構造はむしろ頼香吟『其後それから』に近い」¹⁶と論じているが、劉はそれについて主に日記体とメタフィクションの特徴に言及している。

小論は更に両作の枠組みを対照し、本作と頼香吟『其後それから』は、「苦痛の記憶から逃避→記憶の中で反芻→10年後の再解釈」という間テクスト性を共有していることを指摘したい。

李は本作創作時に、自殺者を救おうとする頼の努力と絶望からインスピレーションを得たことを告白し¹⁷、また「書き終

¹⁴ 原文「如果是為了更加理解作品的世界或這個作家，去進行一些標籤或命名，我覺得是可以的。」。柯若竹（2019.3.6）「《獨舞》李琴峰：旁觀著自己筆下的主角受苦，讓寫作像是種自虐」『OKAPI』<https://okapi.books.com.tw/article/11842>（2022.3.5 確認）

¹⁵ 李琴峰（2017）「ディアスポラ・オブ・アジア」『三田文学』96 卷 131 号、188-211 頁。

¹⁶ 劉靈均（2019）「日本語の「台湾同志文学」の誕生：李琴峰『独り舞』論」『未名』37 号、35 - 41 頁。

¹⁷ 原文「在讀《其後》前，我不知道她（邱妙津）在死前最後一刻，仍跟在東京的朋友（頼香吟）通電話。另一方面，朋友（頼）企圖想要救回她（邱）卻失敗，這種感覺該有多麼絕望，後來也成為我的創作靈感。頼香吟這本書，與其是為了寫邱妙津，其實也是她療傷的過程，也給我了一些啟發，療傷也變成我書中重要的意象。」、<https://www.lezsmeeing.com/post/read/816>（2022..3.5 確認）

えた時、私は初めて『独り舞』に癒しの可能性を考えさせられた。またその癒し方も」¹⁸と付け加えた。言い換えれば、日本語版を書き終え、中国語版の翻訳に取り掛かる際に、李自身の心境変化も作用しているはずである。

頼が亡くなった邱に投げかけた「書くことは私たちの人生を救ってくれるのか、それともより深い暗闇に突き落とすのか」¹⁹という詰問を李琴峰が受け継いだと思われ、中国語版に77箇所もある「F-1 心理・感情の投影」という補足にネガティブな表現が多い傾向は、この命題の共有と関連している。

「L意味の変更」で生に対する意志が強くなった箇所は、邱の『モンマルトルの遺書』は「生きようとする努力に満ちている」²⁰という頼の再解釈に同調し、中国語訳で「癒し」のニュアンスを強めた証拠でもある。

また、もう一つ「J比喩」による書き換えをその文脈で分析すれば、大半はさまざまな「災難」に関するカウンセラーへの言葉や自分の独白場面だとわかる。『其後それから』におけるさまざまな「災難」について、心理描写の語彙が多用されている文体に同調していることが考えられる。

例えば、原作の「カウンセラーの先生が彼女の心に踏み込もうとし、異常行動の原因を探ろうとしていたが、いつも見当違いの質問をしてくるのが彼女にとっては滑稽だった。(20頁)」という一文を「心理諮商師幾番試圖撬開她重重上鎖的心扉，探尋異常行為的原因，拋來的問題卻總是不得要領，這也使她感到相當滑稽。(36頁)」と自己翻訳した際に、「幾重もの鍵が掛かった心の扉」という比喩で、より複雑な心境を伝えたのがその例となる。

¹⁸ 原文「寫完才發現，它（獨舞）讓我去思考一些療癒的可能性，以及療癒的方式。」鄭羽琪（2019.9.24）「台灣旅日作家李琴峰的一場獨舞：讓生命傷口癒成角色的模樣」『太報』<https://www.taisounds.com/People/Story/uid4975317736>（2022.3.5 確認）

¹⁹ 原文「寫作到底將救助我們的人生或將我們推入更深黑之處」、賴香吟（2012）『其後それから』、台北：印刻、107頁。

²⁰ 原文「充滿了求生的努力」。賴香吟（2012）、82頁。

上記の 3 点の間テクスト性を見れば、本作は頼香吟が『其後それから』で残された生存者として、死を再解釈する主旨を継承しているため、中国語に翻訳する際に、その文体との同調として、補足、書き換えが行われたと推知できる。

補足や書き換えの幅は限られているが、生存者の心理を多数のレトリックで表現した『其後それから』と併せて読まれることが想定されることから、追加されたものだと考えられる。

4. 終わりに

筆者は、自己翻訳のテクスト比較の結果も、上述したように作品の主旨をある程度示唆していると考えている。「背景の詳細」を補足した箇所では、記憶を振り返り、物語を深め、「言外の意」では、作者であり、翻訳者であるという特権的な立場で、台湾と日本の言語文化の違いを注釈している。省略はほとんどなく、「原作への忠実性」と「舞台の台湾」への同化が窺える。書き換えから見えた「典故の引用と比喩」は、疎外感や不安を表現するためであり、「同化傾向」は、中国語の修辭的美学への同化を示している。

台湾の事情に関する細部の補足や目標言語への同化傾向、言語の階層性よりも LGBT の階層性に敏感だという傾向は、いずれも中国語に翻訳する際に、日本語による台湾同性愛文学を代表する作品だと自認し、読者の「期待の地平」に接近するためであるとも解釈できる。また、邱との交友で注目を浴びている頼が作中で絶えず台湾文壇を意識する構造を彷彿させる。

本作の物語を 2 回書いた李琴峰は、翻訳という形で、差別された疎外感と再び向き合い、ネガティブなレトリックを多く追加した。インタビューで語っているように、それは確かに「自虐的」な行為ではあるが、「逆に癒しにもなる」こと

を示している²¹。そして、彼女が言うように、日本語版では「彷徨う過程で死に近づいているように見える」²²としていたが、最後に台湾の文脈に戻って自己翻訳した「L意味の変更」の箇所からは、彼女の「生きよう」という意志がより多く見えてくる。

この「特権的な訳者」である李が行った書き換えは、日本読者よりも『其後それから』との間テクスト性を意識する台湾読者の期待の地平に近寄った、『独り舞』を書き終えてからの「再々解釈」だと言える。

参考文献

日本語（五十音順）

秋草俊一郎（2011）『ナボコフ 訳すのは「私」——自己翻訳がひらくテクスト』、東京大学出版会

モナ・ベイカー、ガブリエラ・サルダーニャ編（2013）『翻訳研究のキーワード』、藤濤文子監修・編訳、伊原紀子、田辺希久子訳、東京：研究社、203頁

頼香吟（2012）『其後それから』、台北：印刻、107頁

李琴峰（2017）「ディアスポラ・オブ・アジア」、『三田文学』96巻131号、東京：三田文学会、188-211頁

李琴峰（2019）『獨舞』、台北：聯合文学、12頁

劉靈均（2019）『日本語の「台湾同志文学」の誕生：李琴峰『独り舞』論』、未名37号、神戸：中文研究会、35-41頁

H.R.ヤウス（2001）「挑発としての文学史」、轡田収訳、東京：岩波書店、40頁

中国語順（筆画順）

尹荷風（2019.2.13）「承繼台灣同志文學，日本群像新人獎

²¹ 原文は「自虐的同時卻也可能產生療癒」。鄭羽琪前掲記事より。

²² 原文は「漂泊的過程中彷彿更接近死亡」。同上。

得主李琴峰，攜《獨舞》與讀者見面」『open book』

<https://www.openbook.org.tw/article/p-36792> (2022.3.8 確認)

林孟寰 (2019.3.10) 「李琴峰《獨舞》：一則海漂世代的同志青春物語」『聯合文學 unitas 生活誌』

<https://www.unitas.me/?p=7131> (2022.3.5 確認)

柯若竹 (2019.3.6) 「《獨舞》李琴峰：旁觀著自己筆下的主角受苦，讓寫作像是種自虐」『OKAPI』

<https://okapi.books.com.tw/article/11842> (2022.3.5 確認)

鄭羽琪 (2019.9.24) 「台灣旅日作家李琴峰的一場獨舞：讓生命傷口癒成角色的模樣」『太報』

<https://www.taisounds.com/People/Story/uid4975317736>
(2021.10.5 確認)

英語順 (アルファベット順)

Clifford Geertz, 1973, *The interpretation of cultures*, New York : Basic Books, p.5/p.452。

David Damrosch, 2003, *What Is World Literature?* , Princeton: Princeton UP, p. 281.

表 1 自己翻訳の日中テキスト表

一、補足

A 時間

1.そんな現実的な話は二十七歳の彼女にとって無関係ではないはずだが、何故か自分事として捉えることができなかった。5頁	1.理論上、這種關於未來的現實話題對年僅二十七歲的她來說應該是密切相關的，但她心裡卻總覺得事不關己。19頁
2.その結末は偶然なのか必然なのか、誰にも分からない。25頁	2.那結局究竟是偶然抑或必然，二十年過去了，誰也不得而知。42頁
3.岡部と手を繋いで足を引き揃りながら遠ざかる繪梨香の背中を、彼女は見ていた。二人は道端に止まっていた銀色の自動車に乗り込み、車は走り出した。29頁	3.她目送著繪梨香的背影一跛一跛地逐漸走遠。繪梨香牽著岡部的手，兩人坐進停在路旁的一台銀色轎車，沒多久轎車就奔馳而去。45頁
4.世間がどうだとか、結婚制度がどうだとか、現実的なことが一切心の明鏡を掠めることなく、彼女はただ漠然とそんなことを考えていた。36頁	4.對當時的她而言，周遭眼光如何如何，婚姻制度又如何如何，這些現實世界裡的瑣事絲毫未曾在她心中的明鏡留下半點陰影。53頁
5.昨晚、長野から帰ってきた繪梨香と一緒に夕食を食べ、岡部の実家への旅の報告を聞いた。65頁	5.昨天週六，從長野縣回到東京的繪梨香約好和她一起吃晚餐，報告訪問岡部老家之旅的結果。84頁
6.久しぶりに小説を書くとしたが、上手く行かなかった。思うようにストーリーも中々浮かばなかった。105頁	6.許久沒寫小說，突然心念一動，又想寫作了。打開電腦試著寫了幾行，卻總寫不上手，心裡積蓄了二十年的詞藻庫像是生了鏽般硬打不開，小說情節的靈光也總不閃現。129頁
7.冬に差し掛かる頃、繪梨香は彼女にそう伝えた。119頁	7.轉眼又一個冬季，寒風颯起的時節，繪梨香如此告訴了她。145頁
8.形の無い不安とは無関係に、年の瀬が迫るにつれ、彼女も押し寄せる日常の波に埋没した。131頁	8.無關乎潛藏在她心裡無影無形的不安，時間兀自流逝，隨著年尾接近，她也沒埋沒於自身日常生活的浪潮之中。157頁
9.期望が現れなくても、いずれは他の誰かが、他の動機により、他の方法で彼女の過去をばらすだろう。137頁	9.就算期望沒出現在她的生命裡，一定也會有其他人，在其它的時間點出現，因著不同的動機，利用不同的方式將她的過去暴露於人前。164頁
10.彼はこれからだと言わんばかりに益々賑やかになってきた店内は、死とは程遠い雰囲気だった。152頁	10.過了十二點店裡愈發熱鬧起來，彷彿宣告著夜晚上正要開始，那氛圍與死亡八字子打不著。181頁
11.ちょうど大雪が降って、飛行機が二時間も遅延したが、お蔭で北京の空を覆うハイスが綺麗に洗い落とされ、雪化粧した万里の長城、紫禁城と大観園を見ることができた。154頁	11.北京正下著大雪，飛機因而誤點了兩個小時，但多虧了白雪，長年覆蓋北京上空的霧霾被一洗而淨，她因此得以見識到為白雪所妝點的紫禁城與大觀園，以及山舞銀蛇的長城。183頁
12.今まで見た景色と人物の表情が、絶え間なく脳裏を駆け巡った。167頁	12.二十八年的人生裡所見過的人事物，那些景色與人物表情歷歷在腦海裡打轉翻騰。197頁
13.今なら書ける気がした。183頁	13.耗費了十年，她有種頓悟，覺得自己終於寫得出來了。215頁

B 場所

1.心理学を専攻し、カウンセラーとして活動していたくらいだった。25頁	1.主修心理學的她，甚至還在心中軸心擔任過輔導員。41頁
2.暖れた声で、彼女は繪梨香に言った。135頁	2.她沙啞著嗓音對繪梨香道了謝，便走出了會議室。162頁
3.特に目的地も無く、彼女は町を眺めながら歩を進めた。142頁	3.她漫無目的地走在舊金山市街上，隨意地看著周遭的風景。170頁
4.シャワーを浴びた後に漫然とテレビを眺めていたら、あるニュースに注意を引かれた。153頁	4.洗過澡後，她坐在飯店床上心不在焉地看著電視，突然一則新聞吸引了她的注意力。181頁

C 数量

1.柔らかな冬の午後の陽射しが窓の外から降り注ぎ、晴雪を金色に染め上げていた。32頁	1.冬日午後柔和的陽光從窗外撒下，將晴雪的半邊臉染上了耀眼的金。49頁
2.身長が高く、威圧感があるし、顔も綺麗な方で取付きにくそうだし、おまけに表情から感情が読めないところを、彼女はいつも備前で感づいた。32頁	2.比她高上半個頭的晴雪對她而言有種視覺上的壓迫感，美麗的臉蛋看來更加難以親近，加上她總是一副讀不出情感的撲克臉，存在使她不知該如何與晴雪相處。48頁
3.彼女が最近張愛玲を読んでいること、そして「愛」が非常に気に入っているということ、目の前の女の子は知っているのだ。33頁	3.她最近正在讀張愛玲，畢竟名作中尤其喜歡「愛」，在筆記本裡讀了數次。這一切，眼前這個坐坐瀟瀟的女孩肯定都了然於胸。50頁
4.男は押さえ付けるようにして彼女に押し掛かり、体を撫で回した。58頁	4.男人坐到她身上，一隻粗癭的手固定住她的雙腿，另一隻手撫摸起她的身體。76頁
5.それを眺めていると、世界は愛と平和に溢れているという錯覚に陥ってしまおうになる。60頁	5.望著那燦爛的六種顏色，她幾乎要陷入一種世界已滿溢愛與和平的錯覺。79頁
6.明らかに機械翻訳で作った文章にもかかわらず、肝心な情報だけが無駄に正確に伝えられているのだ。133頁	6.那五行日文顯然是機械翻譯出來的結果，文法拙劣，資訊卻偏偏傳達得一點不差。159頁
7.彼女は思い出した。サークルが終わった後、小竹に誘われて、キャンパス内を散歩した夜。175頁	7.她終於想起那個夜晚，社課結束之後，她受小竹邀請，兩人並肩在校園內散步。206頁

D 程度

1.良い響きだ。風の囁きよりも優しく、夢の絨毯よりも柔らかい。3頁	1.多麼悅耳的詞語，輕柔似微風低語，柔軟如夢境絨毯。18頁
2.国は国民を犠牲にしても自らが滅ぶのを絶対に防ぎたい。5頁	2.國家這種東西為了避免滅亡，緊急時就連國民也會輕易犧牲的。20頁
3.死は全てを平等へ導き、全ての傷と痛みを癒す。心のどこかで彼女はそう思っていた。5頁	3.她內心某處總是想著，能將一切事物導向平等，同時治癒所有傷痛的，除了死亡再無其它。20頁
4.病氣や事故の可能性(リスク)の話を交えながら昔し半分に、保険(リスクマネジメント)の勧誘も入ってくる。6頁	4.演講中語帶教育地提到疾病與意外的可能性(所謂「風險」)，然後再自然地不過地推銷起保險(所謂「風險管理」)。21頁
5.シャボン玉は消えていないうちは日光に照らされて七色の光を放ちながら、重力を遡り高く飛ばすとすれば、消えた瞬間、何の痕跡も残さないのだ。6頁	5.肥皂泡在尚未消失之時會在日光照耀下散發七彩光芒，會溯著重力向上飛昇，但一旦消失便是完滿的破滅，不留一點痕跡。21頁
6.彼女は丹辰も川の中に立っていた。13頁	6.她與丹辰站在同一條河流裡。28頁
7.いつの間にか日が暮れていて、蟬の鳴き声がすっかり収まり、部屋は静けさに包まれた。24頁	7.不知不覺日已西暮，蟬噪的聲鳴聲已完全歇止，房間被一片寂靜所包圍。40頁
8.死について書くことで、彼女は生き延びた。24頁	8.透過書寫死亡，她終於活了下來。40頁
9.そう考えると、今ここにいる自分も偶然の産物でしかないと思えてならなかった。24頁	9.如此想來，當下存在於此的自己，不過是種種偶然交疊的產物罷了。41頁
10.夜十一時半、道路を走る車の数はかなり減ったし、三々五々散見される歩行者もまた大抵は駈に向かっていたが、クラブ会場の外では既に入場待ちの長蛇の列ができていた。26頁	10.臨近深夜的十一時半，路上車輛漸趨稀疏，三五成群的行人也大抵都往各個車站的方向走去，派對會場外等著進場的顧客卻大排長龍。42頁
11.まさか、表参道に住めるほど私はお金持ちじゃないよ。ちょうど台湾人の友達と近くで飲んでいるだけ。オールで飲む予定だからちょっと買出しに、彼女は本当のことも言わなければ、嘘も吐いていない形で答えた。27-28頁	11.「哪可能啊，我才沒那麼有錢能住在表參道勒，只是剛好和台灣人的朋友在附近喝幾杯，大家有興就喝過酒，我就來採買些東西罷了。」四平八穩，沒撒謊也沒說真話的回答。44頁
12.十分間くらい立ち話をして、繪梨香と岡部は店を出た。28頁	12.就那樣站著講了十來分鐘話後，繪梨香和岡部才向她道別往店外走去。44頁
13.これらの作家が全て自らの意志で命を閉じたことを知ったのは後のことだったが、それ以来、より一層作品に共感できるようになった。31頁	13.後來她偶然得知這些作家都是以自身意志結束生命的，從此更對這些作家的作品世界產生共鳴。48頁
14.文理選択による九月のクラス替えで、新しいクラスに馴染めず、運動会にもさほど興味の無い彼女は、一人でこっそり歓声と拍手の音で賑わうグラウンドを抜け出し、図書館に入った。32頁	14.九月選課後重新編班，她一如往常地無法融入新班級，對運動會也沒多大興趣，便悄悄地溜出掌聲與歡騰充斥的操場，躲進了圖書館。49頁
15.この鳥は巣立った日から、鋭く尖った棘の生えた樹を探して飛び回る。37頁	15.這種鳥從離巢的那天開始，每天每天都為了尋找長滿荊棘的樹而四處飛翔。54頁
16.まだ字が派山読めない低学年の頃から、休憩や放課後の時間を使って、注音符号を拾いつつゆっくり読み進めていたことを今でも覚えている。あまり人と話さないから気味悪がられたこともあったようだった。10頁	16.至今她仍記得，從大字還不認識幾個的小學低年級開始，她便總是利用課間休息以及放學後的時間，靠著注音符號如爬陡坡般緩慢卻執拗地閱讀著那些書籍。由於不大與人交談，周遭同學似乎都覺得她頗為陰森而疏遠著她。25頁
17.目を閉じると、丹辰の顔が静かに甦る。夢に沈むと、丹辰の微笑みが幽かに浮かぶ。19頁	17.丹辰的臉龐浮現在每一個她閉眼的瞬間，丹辰的微笑占據了她的每一個夢境；35頁
18.写真を見ていると、突如率が頬を伝って流れ落ちるのを感じた。22頁	18.她凝望著照片良久，突然感到淚珠沿著臉頰滑落。38頁
19.いつもの喉り泣きとは異なる号泣だった。22頁	19.不同於平時的啜泣，這次她無法自己地嗚嗚大哭。38頁
20.だとすると、丹辰のために何かを創り、捧げた。楽器ができないから楽曲は無理。だとしたら、言葉だ。23頁	20.若真是如此，那就必須由自己創作些什麼，來獻祭給丹辰，她不會樂器，作曲自然是不可能的。她所有的只有文字了。39頁
21.息苦しいほどの自己壊滅的な絶望をぶちまけた作品群とは対照的に、人前での邱妙津は常にスターのように振る舞い、周りの人から元気の源だと思われていたらしい。25頁	21.邱妙津的作品雖然充滿令人窒息自我毀滅性的絕望，但據說現實裡的地意氣風發，是人前的一顆閃耀明星，周遭友人活力的泉源。41頁
22.例えば、薫に振られたことに意味はなかったし、その痛みを和らげるべくクラブで感情を麻痺させたこともあった、無意味だった。39頁	22.舉例，被小薰狠燙電掉這事並不存在意義，其後為了緩解痛苦而在夜店裡以酒精麻醉感情，這也毫無意義。56頁
23.微笑みながら答えてから、敢えて意地悪く質問を追加した。「で、そろそろ白状したら？いつから付き合ってるの？」41頁	23.她擺出完美的微笑如此回答後，又刻意使了個壞，捉弄似地問道：「該輪到你老實招了吧？說吧，你和岡部前輩是什麼時候開始交往的？」58頁
24.そう言いながら、彼女は自分の言葉に心底失望した。54頁	24.話才剛說完，她便對自己失望透頂，恨不得把自己跟根掐死。72頁
25.少し離れた所の逢夜夜市の喧騒だけが、遠くで木霊していた。56頁	25.唯有逢夜夜市的喧嘩，在遠處若有似無地影響著回去。75頁
26.台中と台北も会えない距離だった。59頁	26.台中與台北又不是天涯海角般見不著面的距離。75-76頁
27.意識を失う直前まで、男のその言葉は彼女の脳裏で絶えず木霊していた。58頁	27.在她再度失去意識之前，男人膽脆的話語不斷在她腦中匡啷作響。77頁
28.その論理性に乏しい考えに、彼女は長い間苦まってきた。59頁	28.這種想法毫無邏輯也無法遊說，卻不斷在漫長的時光裡折磨著她。78頁
29.氷の穴蔵に抛り込まれたようで、全身の血液が凍結しそうだった。77頁	29.又像被拋擲進萬劫不復的寒冷冰窖之中，全身血液幾乎凍結。97頁
30.「感電しちゃってるのよ。電流が全身を流れていく」84頁	30.「這是觸電，電流在我全身流竄，好麻。」105頁
31.その瞬間、ありとあらゆる音が潮のように引いていき、世界は私と小雪の二人しか存在しないかのように感じた。98頁	31.在那瞬間，周遭一切音聲都如潮水般退去，萬事萬物也都褪去了色澤，世界彷彿只剩下我與小雪兩人。121頁
32.彼女を見かけた途端、繪梨香は朝のように頬を染めた。二人は一緒に食事することにした。40頁	32.繪梨香一看到她立刻臉紅了臉，兩人找了座位一起用餐。57頁
33.寒い。拒絶に入っている、骨の髄まで凍り付いた感じがした。91頁	33.她感到全身發寒，就算下半身泡在暖桌裡，暖桌被蓋到了肩膀，她仍感覺自己冷得連骨髓都快結凍。113頁

34.隣に座っていた三十代の白人男性が彼女に話しかけてきたが、すぐに興味を失ったようであった他の客との会話に耽った。152頁	34.坐在她身旁看起來年約三十幾歲的白人男性禮貌性地向她搭了話，但不久便對她失去興趣，繼續與其他客人聊起天來。180頁
35.その言語は彼女にも理解できるはずだが、聞き取る力は無かった。170頁	35.那語言她若用點力去聽應該是能聽懂的，但現在她沒有多餘的力氣去聽了。200頁
36.彼女は思い出した。サークルが終わった後、小竹に誘われて、キャンパス内を散歩した際。175頁	36.她終於想起那個夜晚，課餘結束之後，她受小竹邀請，兩人並肩在校園內散步。206頁
37.「さあ。仕事が見つからなかったら帰るかもしれないし、見つかったところで日本に骨を埋めるとも限らない」そう前置きして、しゅちゃんはきっぱりと続けた。128頁	37.「誰知道呢，可能找不到工作就回去了，就算找到了工作也未必就會一輩子待在日本。」小書語調鏗鏘地說。154頁
38.「紀恵、彼女はもう充分強い」181頁	38.「紀恵，妳已經夠堅強了，堅強到了連她的地步。」212頁

E その他背景の詳細

1.高層オフィスビルの二十三階で、ガラス張りの壁越しに色鮮やかなネオンライトが点滅する街を覗きながら、彼女はこの言葉を何度も玩味した。3頁	1.兀立於高層辦公大樓的二十三樓，她一邊透過大面積落地窗俯瞰城市霓虹燦爛，一邊反覆在心裡玩味著這個詞語。18頁
2.このような死生観は珍しいものかどうが、彼女には分からない。4頁	2.這樣的生死觀在這世上是否少見，她不得而知。18頁
3.それは社員食堂で、岡部という二つ上の先輩が滔々と論を広げていた時のことだった。4頁	3.那時他們在公司餐廳裡，早地兩年進公司的岡部前輩滔滔不絕地談論著經濟的話題。19頁
4.三十歳までに結婚し、子供が二人欲しい、一軒家のマイホームを買いたいと言う由佳は、研修で配られた資産運用の資料を熱心に読み込んでいて、その明るい笑顔は咲き誇る向日葵を連想させた。6頁	4.大學剛畢業的由佳談起未來，說她想在三十歲前結婚，想要兩個小孩，還想要買獨棟的房子。由佳專心地讀著培訓講座發下的理財講義，開朗笑著的側臉令她想起盛開的向日葵。21頁
5.福利厚生の一環としての保険プランは料金が安い分、厳しい加入制限が設けられている。7頁	5.演講裡介紹的保險是公司福利制度的一環，雖然保險費便宜，卻有嚴格的購買限制。22頁
6.同じ部門に配属された絵梨香は自己紹介の時に何度か吃ってしまった、辛うじて「宜しくお願いします」で締め括った。7頁	6.培訓結束後兩人分發到同一個大部門，自我介紹時繪梨香口吃了好幾次，最後勉強以「請大家多多指教」作結。22-23頁
7.一年後の秋、五年生に上がった始業式の日、担任の先生は丹辰の死を告げた。11頁	7.一年後的秋季，剛升上五年級的開學典禮那天，班導師對全班告知了丹辰的死。26頁
8.夏休みに母親のバイクの後部座席に乗せられてピアノ教室に通う途中、碎石を載せたダンパーに撥ねられたそう。11頁	8.說是在暑假期間，丹辰坐在母親機車後座，在前往鋼琴教室的途中出了車禍，被碎石撞到了。27頁
9.後で考えれば、それは極めて不謹慎な発言だったが、あの時の彼女は至って真面目だった。12頁	9.幾年後已知人事的她回想時，也不得不承認那話說得在太過輕率，但彼時的她卻相當認真。27頁
10.外はまだ真っ暗で、常夜灯の薄明りだけが周りの闇と拮抗していた。13頁	10.窗外仍是一片漆黑，只有床邊夜燈微弱的光芒仍努力與周遭的黑暗抗衡著。28頁
11.薄汚い黄色の街灯を頼りに、人々のシルエットが視認できた。13頁	11.靠著路燈的暗黃光芒，她認出周遭站著許多人影。29頁
12.違う。「しか」という能動性の欠した表現を使わないでほしいな」15頁	12.「還多了一，請不要用『只能』這種缺乏能動性的字眼來描述我的性取向嗎？」30頁
13.留守番の時に、発作的に赤のカラーペンで壁を塗らたくったり、20頁	13.獨自一人在家時，她有時會突然拿著紅色筆在雪白的牆壁上胡亂塗抹。36頁
14.彼女は最下位の成績で卒業した。21頁	14.她以墊底的成績從小學畢業。37頁
15.卒業式には出なかったが、それでも君は卒業しなければならぬのだとでも言うように、卒業アルバムはちゃんと郵便で家に届いた。21頁	15.畢業典禮那天沒去學校，但畢業證書和畢業紀念冊仍寄到了家中，像是在對她說著，妳非畢業不可。37頁
16.教室の中で、丹辰はオルガンの椅子に座り、他の三人が丹辰を囲んで立っていた。21頁	16.場景是在教室裡，丹辰坐在風琴椅上，三個同學站在丹辰身周。37頁
17.それは四年生の音楽の時間だった。22頁	17.那是四年級的樂器音樂課。38頁
18.彼女は心の中で呟きながら、涙を拭い取ろうとした。22頁	18.她一面在心裡嘀咕，一面抬手拭去淚珠。38頁
19.しかし偶然でも、彼女は曾て邱妙津が一度訪れた東京に来ている。25頁	19.但就算是偶然，她也畢竟來到了邱妙津曾一度來訪的東京居住。41頁
20.そんな環境でも、彼女は小学校高学年の頃より遙かに健康的だった。30頁	20.即使是在那種不健康的環境，她也比小學高年級時來得健康許多。47頁
21.ちゃんとした原稿用紙にしろ、教科書の一角にしろ、作品を書き始めると耳にフィルターをかけられたかのように、周りの喧騒が遠くの山彦のようにしか聞こえなくなる。31頁	21.當她握筆筆，在稿紙上，或是教科書隨便一個角落開始寫作時，雙耳就彷彿裝上了過濾層一般，周遭的喧嘩剎那間轉變成遙遠山谷的回音。47頁
22.元々彼女に話しかけようとする人はいないし、彼女も人に話しかけるのが億劫だった。31頁	22.本來班上就沒什麼人會主動找她說話，而她也沒動力主動找人談話。47頁
23.編集部という、学生雑誌を作る部活で、校内文学賞を主催したり、取材して記事を書いたりするのが活動内容だった。32頁	23.才女奇女群集的編輯社，製作校刊的社團，也辦辦校園文學獎，採訪名人寫寫專題報導。48頁
24.それは二年生の十二月、運動会の日だった。32頁	24.升上高二後的十二月，冬陽下的運動會。49頁
25.日本はGDPの二倍以上の借金をしているとか、これからは歴史的な円安を迎えるから時機を見て早く資産をドル建てにした方が良くとか、そういう話題だった。4頁	25.他說，日本現在負債已超過GDV兩倍以上，不久的將來日幣肯定會史无前例地大貶值，所以最好看準時機早點把資產都換成美金才好。19頁
26.そこは家の外だった。まだ夜中みたい。13頁	26.她們人在外面，時間似乎還是半夜。29頁
27.彼は東大卒で、瘦削長身、眼鏡を掛けている顔はメガネザルを想起させるところがあるが、頭のキレがよく、数字に強くと部活内でも評判だった。4頁	27.岡部畢業於東大，身材高瘦，一張臉戴著眼鏡看起來活像隻眼鏡猴，但是腦筋轉得極快，對數字與計算的敏感程度也是部門內同事公認的。19頁
28.放課後、同級生の女子数人が集まってそんな話をしていた。彼女も会話の輪に加わった。31頁	28.放學後，幾個同班的女生聚在一起說著話，她偶然聽到丹辰的名字，便也加入了話題。19頁
29.翻訳がどうも癖に落ちないから原文を読みたくなり、それで日本語にも手を出してみた。31頁	29.看了中文翻譯本總覺得不太對勁，便乾脆開始學日文，希望有天能看懂原文。48頁
30.彼女が最近張愛玲を読んでいること、そして「愛」が非常に気に入っているということ、その前の女の子は知っているのだ。33頁	30.她最近正在讀張愛玲，累累名作中尤其喜歡《愛》，在筆記本裡標了數次。這一切，眼前這坐窗邊的女孩肯定都了然於胸。50頁
31.邱妙津を苦しめた九〇年代ではなく、新世紀に青春時代を過ごすことができるのだから。34頁	31.畢竟自己避開了折磨邱妙津的九〇年代，得以在新世紀度青春歲月。51頁
32.例えば、薫に振られたことに意味は無かったし、その痛みを和らげるべくクラブで感情を麻痺させたこともまた、無意味だった。39頁	32.舉例，被小薰狠狠甩掉這事並不存在意義，其後為了緩解痛苦而在夜店裡以酒精麻醉感情，這也毫無意義。56頁
33.彼女は岡部のことに触れないよう気を配っていたが、絵梨香の方から先にその名前が出てきた。40頁	33.談話間她小心翼翼地不觸及岡部的話題，沒想到繪梨香卻先將那名字說出了口。57頁
34.岡部さんは三人兄弟の末っ子だけど、上のお兄さんが二人とももう結婚していて、奥さんはどちらも仕事を辞めて、家で農事と家事を手伝っているみたい。41-42頁	34.岡部前輩是家中老么，上面兩個哥哥都已結婚，妻子本來都有工作的，婚後卻都辭掉工作在家裡幫忙家務和農事。」58-59頁
35.「絵梨香ちゃんだって頭良いし、実力で今の会社に入ったんだから、とやかく言われる筋合いは無いと思うけど。そもそも絵梨香ちゃん自身はどう思うの？仕事は続けたいと思う？」42頁	35.「我覺得繪梨香妳也很聰明，能進現在的公司選的也是實力，沒必要那麼擔心別人的看法，倒是妳自己的意志比較重要，妳是怎麼想的呢？妳若結了婚，會想要繼續工作嗎？」59-60頁
36.絵梨香にとって、今の言葉を発するのに一生懸命だったに違いない。45頁	36.對內向的繪梨香而言，要擠出方才那番夾帶帶刺的話語，肯定已用盡了全力。62頁
37.結局案外とも泣くこともせず、彼女はただ溜息を吐いて、立ち上がった。45頁	37.最後她沒哭也沒哭，只是嘆了口氣，收拾餐盤站起了身。62頁
38.彼女も仕事を切り上げ、帰宅の支度を始めた。46頁	38.岡部走後她也停下手邊的工作，準備下班。64頁
39.顔についた濡れた粒や油で汚った口を拭き取って、彼女は笑い合った。たとえ真夏でも、雪と梅はちゃんと結ばれているを見と、そんな馬鹿げた発想に彼女は陶然としていた。49頁	39.她一邊邊擦著美肌，一邊嘲笑著彼此臉上的糯米粒和嘴角泛著油光。即使是盛夏，雪與梅還是要聚在一塊的——她腦中驕地閃過這個想法，隨即便陶醉於自己那蠢笨得可笑的幻想之中。67頁
40.夜の雑踏と喧騒とは無関係に、夜のキャンパスは静かな闇に包まれていた。49頁	40.夜晚的校園被沉靜的黑暗包圍，彷彿幾步外夜市的喧嘩雜音都與之無關。67頁
41.歩き疲れて、二人はどちらからともなく、当たり前のようにキャンパス内に入っていった。49頁	41.兩人在人羣中走累了，不約而同地轉了個彎走進校園。67頁
42.恐らく丹辰とは無関係ではないだろう。50頁	42.或許和丹辰的去世有某種關聯吧。68頁
43.そんな小雪は大好きだが、時には丸裸にされ、心の隅々まで見透かされているような気分になる。51頁	43.她雖喜歡小雪這樣的細膩體貼，有時卻也感到自己在那小雪山前簡直是坦身裸體一般，一顆心被裡裡外外看個精光。69頁
44.小雪は息を吐いた。「ただ、ずっと迎梅の傍にいられるとも限らないの。私は本当に迎梅のことがすごく好きだから、たとえ私がなくなっても、生きていてくれる？」52頁	44.小雪嘆了口氣，垂下了頭。「但我也不能保證能一直待在你身邊，不是嗎？我是真的很喜歡你，希望你過得好，所以妳能不能和我約定，就算我不在你身邊，妳也要活得好好的？」70頁
45.「それは間違いない。迎梅の人生に私がとやかく言う筋合いは無い。でも……」52頁	45.「妳說得沒錯，我知道，那是妳的人生，我沒資格說三道四。但……」70頁
46.小雪は頭を彼女の肩に先ず掛けた。空気がどことなく暑苦しく、雲は今にも頭に雪崩れくるように低い。53頁	46.小雪輕輕將投靠在她的肩上，如此說道。空氣瀰漫悶熱，天空的烏雲低得彷彿要砸到頭上。71頁
47.小雪が気になっているのは、自分自身の失敗でそんな未来予想が壊れてしまうということのほすだ。54頁	47.讓小雪傷心的，比起「沒考上台大」這件事本身，毋寧是自己的失敗摧毀了想像中的美好未來。72頁
48.やっと再会した二人が、夜の酔月湖の畔で風に吹かれながら散歩したり、温州街の入り組んだ小道で書店とカフェを探索したり……56頁	48.重逢的兩人迎著涼風漫步於夜晚的醉月湖畔，或是在阡陌縱橫的温州街裡探索著未知的書店與咖啡店……74頁
49.急に背後から引き倒されたのを感じた。57頁	49.她突然感到身體被一股強勁的力道往後拉。76頁
50.誰かが息を立っている。57頁	50.有人在頭上喘著粗氣，一股口鼻襲來。76頁
51.黄金週間という若に相応しく、澄み渡る青空に懸かる日輪が黄金色の光を放っていた。61頁	51.黃金週名副其實，天氣大晴，澄澈蔚藍的天空中一輪驕陽綻放著燦爛的金黃光芒。80頁
52.書店が講演会などのイベントを開催する日には有休を取り、台湾に戻って手伝いをしていて、中々忙しい。61頁	52.當書店舉辦演講等活動時也會向公司請特休回台灣幫忙，兩地來去相當忙碌。80頁
53.平塚下は渋谷区役所前から出発し、渋谷駅前のスクランブル交差点を通り、表参道を經由して代々木公園に戻る。64頁	53.遊行路線從澀谷區公所前的十字路口出發，走過澀谷車站前的大馬路口，經過表參道後回到代代木公園。82頁
54.一時的な状態とは言え、彼女はそれで一息つくことができた。64頁	54.雖說只是暫時的狀態，卻使行走其中的她終於得以大口呼吸。83頁
55.自分にこんな素直さがあるのだろうか、絵梨香を見つめながら、彼女はそう考えずにはいられなかった。65頁	55.倘若易地而處，她是否能有如繪梨香一般的誠懇坦蕩？望著繪梨香的臉龐，她不禁如此想道。84頁
56.息子は昔から勉強が好きで、彼女ができないんじゃないかと心配していたけど、こんな優秀な彼女ができてホッとしたわ、なんてことも言われたらいい。65頁	56.還說岡部從以前就只知道念書，他們還擔心他會不會交到女朋友結不了婚，幸好有了這樣一個優秀的子女，他們也就放心了等等。84頁
57.よほど顔色が悪くなったか、ソフィアからも、「どうしたの？」66頁	57.或許是臉色看起來太蒼白了，走在身旁的蘇菲亞轉頭問她：「妳怎麼了？」85頁
58.何も答えなかった彼女は一顧り見つめて、母は彼女を抱こうと両腕を伸ばした。69頁	58.而她一語不發。母親凝視了她好一會，對準她走來，伸出雙臂要將她抱在懷中。89頁
59.小雪はやはり目標の成績が取れず、浪人することになった。71頁	59.小雪則一如預期沒考到理想成績，留在台中重考一年。90頁

60.誰とも言葉をお互に言わないうせいで、彼女は学内で酷く不気味がられていた。	60.她幾乎不與人交談的，在講究團結的系上遭到不小的排擠。93頁
61.二十三歳で渡日してから瞬く間に三年半が経ち、その間に彼女は大学院に入学し、修了し、会社勤めを始めて一年半が経っていた。	61.二十三歲離開台灣來到日本，轉眼之間已過了三年半，期間她上了研究所又畢了業，在一家日本公司找到工作，工作也順利地做了一年半。98頁
62.付き合おうという明確な示し合わせこそ無かったものの、友達を超えた間柄という暗黙の了解が、二人の間にはあるように思えた。	62.雖然沒有明講要交往，但她了然於心，知道兩人之間有種默契，即使沒有明確的言語約定，兩人的關係依舊已經超越了一般友誼。100頁
63.思い出すことすら精気が付くそれらの記憶を甦らせ、改めて言葉にして語るの、想像以上に精神力を消耗する作業だった。	63.她奮力挖起那些平時只要一想起便使她深感恐懼的記憶，嘗試重新對其賦予語言，給定時間順序，以自己的話語述說出來。這比她原先所想更加耗費精神力。112頁
64.日本統治時代から残っているルネサンス風の主棟も中々壮麗だが、その左隣に静かに佇む精神科外来も、外の常徳街と中山南路の喧騒を忘れさせてくれる。	64.從日治時代遺留至今的文藝復興風格的正廳是壯麗，但靜靜佇立於其左側的精神科門診，那小而美的建築也足以令人忘卻外面常徳街和中山南路的世俗喧嘩。115頁
65.診察室の外でいつも二、三時間待たされるが、窓から射し込む眩し過ぎない黄金色の日の光を浴びながら本を読んでいると、ここは病院で、自分は患者であることすら忘れる。	65.雖然每回在診間外總是得等上兩、三個小時，但靜坐窗邊，一邊沐浴著來自窗外不過於耀眼的金黃色光芒，一邊看著小說，便幾乎要忘記現在身處醫院，而自己是個患者。115頁
66.『日本語会話二』で助数詞の使い方の練習をした。先生は「皆さんは頭が良いので、子供を沢山産んで優秀な遺伝子を残さない」と言った後、一人ずつ当てて「おさんは子供が何人欲しいですか？」や「子供を何人産みますか？」と訊いて答えさせた。	66.『日語會話二』教到日文量詞用法，課堂練習前老師用日文說「大家都很聰明，所以要盡量多生小孩，把優秀的基因留給下一代」，然後便一個一個點名學生用日文問「你要生幾個小孩？」或「你想要幾個小孩？」讓學生回答，練習「人數」量詞的用法。117頁
67.「いつも陰気臭い顔をしていて何様のつもり？」とか、「そんな昔のことでいつまで沈んでたら気が済むの？」とかが耳に入って、気が付いたら既に走り出していた。	67.「老是揮霍一副臭臉，以為自己是誰啊？」、「都那麼久之前的事了欸，玻璃心」，幾句話隨風飄進耳裡，回過神時已經跑了起來，也顧不得給羞了。118頁
68.なるほど。女が好きになれない、ではなく、女が好き、と考えるようにしたら如何ですか？」	68.「原來如此。」陳醫師推了推眼鏡。「你不要不要試試看，做一個思考練習？你不是只能喜歡女生，而是就是喜歡女生。」120頁
69.旧正月を機に一週間ほど痛省した。	69.許久沒回家，趁著農曆年期間回家住了一星期。120頁
70.「維新」という言葉の響きが妙に心地良かったので、思わず目を凝らして人群れを眺め始めた。	70.「維新」這詞聽起來有種莫名的順耳感，我因而凝神望向人羣，想搞清楚他們在做什麼。121頁
71.このように陳先生に打ち明けたら、先生は、「治療を始めてから一年半経ったし、それなりの効果があったと思います。夏休みはじっくり休んで、新学期になったら勇気を持って、新しい一歩を踏み出してみたらどうですか？」とアドバイスしてくれた。	71.我對陳醫師如此坦白後，醫師點點頭，建議我「療程開始到現在已經過了一年半，我覺得是有些效果了。妳就趁著暑假好好休養生息，等新的學期開始，不妨試著踏出新的第一步如何？」122頁
72.一九六九年に京都でできた親友も新世紀に入ってもなく亡くなり、作者が出したお海やみの手紙も「該当者なし」の判子を押され返されたという。	72.而一九六九年訪問京都時結交的當地學友也在時代進入新世紀不久之後便過世身亡，得知老友已故的消息的作者所寄出的悼念卡片，竟被蓋上「查無此人」的戳章退了回來。123頁
73.活然院の境内を漫ろ歩きすると、大きな網を張っている絡新婦を見かけた。	73.穿過法然寺門前，在寺裡漫步一陣後，忽然瞥見一張大大的蛛網，上面懸著一隻黑黃相間、色彩鮮艷的絡新婦。125頁
74.蜘蛛の糸が銀色に光っていた。	74.蜘蛛絲在陽光照射之下，閃耀著銀色的幽光。125頁
75.一年半前の私だった。きつと堪え切れなかっただろう。	75.若是一年半前的我，在看到這照片之時肯定是無法承受的吧。128頁
76.カウントダウンの後は人混みのせいで中々バスと地下鉄に乗れなかったから、思い切って乗換の住んでいる台大第三男子寮まで歩いた。	76.倒數計時完畢後人羣逐漸散去，公車和捷運都被潮水人潮淹沒，怎麼也搭不上，於是我們便乾脆從市民廣場步行回到到候所住的台大男三舍。132頁
77.小竹が代表してプレゼントと帝せ書きを渡してくれた。	77.小竹面帶微笑，代表大家將禮物和卡片交給了我。133頁
78.誕生日がブライズなのには予想していたが、これほど盛大にやってもらえるとは思わなかった。	78.小竹打電話來時我便想到有可能是生日驚喜，卻沒想到竟會如此盛大。133頁
79.では宿題としましょう。完治とはどんな状態か。	79.「那這就給你當作業吧。回家後好好想想，所謂『痊癒』是指什麼樣的狀態。134頁
80.完治とはどんな状態か。それを手書きで表現できな。	80.痊癒是指什麼樣的狀態？我想了好久，仍無法順利以言語表達。134頁
81.何となく笑いが顔に浮かび、小竹の言葉は胸中で木霊した。心臓を締め付けられるような気分だった。	81.我那時雖然笑著噙嘴了過去，這幾天來小竹的話語卻不斷在心中迴盪，胸口彷彿被什麼東西緊緊綁住一般呼吸困難。135頁
82.時計を眺めると、夜九時を回ったところだった。	82.轉頭望向牆上的時鐘，短針剛爬過九點。138頁
83.あの二十万人を擁する大都会なら、私の居場所くらいはあるはずだ。	83.東京，這座一千萬人居住的大城市裡，總該有那麼一個角落許我容身吧。138頁
84.ちょうど都内の有名私立の文学研究科に、かなり良い条件の奨学金を提供して、日本漢文学と日中比較文学専攻の大学院生を募集しているコースがあった。	84.資料審查審查，發現東京一間著名私立大學的文學院研究所提供頗為優渥的獎學金，招收研究日本漢文學與日中比較文學的碩士生。138頁
85.彼所で名前変更届を出してきた。	85.到區公所去辦了改名手續，領了新的身份證。141頁
86.四年生は必須科目が少なく、今日は趣味で取った『詩経』しか授業がなかった。	86.大四生必須科目本來就少，今天就只有兩堂因興趣而修的『詩經』選修。141頁
87.「紀恵ちゃんならどうするの？結婚して仕事を辞めなさいと言われたら？」	87.「若是紀恵妳會怎麼做呢？萬一結了婚，被對方家庭要求辭掉工作專心做家事，妳會聽從嗎？」60頁
88.彼女は仕事に戻った。	88.她回到辦公室，坐下來開始工作。63頁
89.顔より大きい骨付きの鶏胸肉を丸ごと揚げた雞排や、糯米の腸詰で豚肉のソーセージを包んだ大腸包小腸。	89.大到雞排整塊炸下去比人臉還大，大腸包小腸飄著豬肉香腸與糯米香。67頁
90.彼女達は照明のあまり届かないベンチを選んで腰を下ろした。	90.兩人刻意避開照明明亮處，在邊角的長椅上坐下。67頁
91.小雪はきつと参加しているに違いないということもまた、容易に予想できた。	91.而上大學後似乎頗積極參加社團的小雪會參加遊行，這也在預料之內。127頁
92.昔は私のためだけの呼び名だったのに、今や広報にまで使われているなんて、どこぞ深く落ち込んだことはいくらでも記憶している。	92.第一次在熱線網站上發現小雪的名字時，一想到「小雪」從前是專屬於我的親暱稱呼，而現在竟已成了登在網站上供大家叫喚的公開名號，心中就止不住一陣落寞。128頁
93.新しい名前を考えた。	93.待在家裡沒事，便思考著該改什麼名字才好。140頁
94.結局こそ悲惨だけれど、少なくとも薫には打ち明けられた。	94.雖然結局悲慘，但至少她已努力過，對小薰坦白了「災難」始末。145頁
95.席に居る人は誰も彼女のことを気にしておらず。	95.同事們對走進辦公室的她並沒有特別留意，只是各自坐在座位上做著自己的事。157頁
96.不吉な予感で早まる動悸を抑え、彼女は席に着き、パソコンを立ち上げた。	96.她一邊壓抑著因不祥預感而加速的心跳，一邊在自己的座位上坐下，將工作用的筆記型電腦從抽屜抽出，開機。159頁
97.吹雪の吹き荒ぶ中で、果ても見えない夜の雪原を一人の女が当てる所なく彷徨っていた。	97.風雪呼嘯肆虐的夜，一望無際的雪原裡，一個孤身女子徬徨無依，四處遊蕩徘徊，臉上滿是瘡痍。164頁
98.キャロリンは彼女を見ずに、見るに値しない夜のように嘆り続けた。	98.Caroline 並沒看她，只是低著頭，喃喃自語般地繼續講述著。174頁
99.そもそも、一週間後の夜に、四千キロ離れた都市で自分の死を見届けたいという常識を逸脱した依頼だったのだ。ほったらかされても仕方が無い。	99.再說了，這可不是一般的約會，Caroline 提出的，可是「希望她在一個禮拜後的夜間，在四千公里之外的都市，見證自己的死亡」這種逸脫常識範疇的要求，被放鴿子也是沒辦法的事。181頁
100.バスに揺られて一時間ほどで、西安古城區の城壁が見えてきた。	100.搭上搖搖晃晃的擁擠大巴，一個小時後，西安古城區灰撲撲的城牆便映入了眼簾。182頁
101.城壁の南門である永寧門一帯は、幻想的なランタンと飾り提灯で華やかに飾られ、見物客は長蛇の列どころか、長竜を成す勢いで賑わっていた。	101.城牆南門，也就是永寧門一帶，華麗的燈籠與大型燈籠與小型燈籠紛紛溢彩流光，玉盞光輝，宛如夢幻，觀賞的群眾大排長龍，熱鬧非凡。183頁
102.万里の長城から降りた時、雪が更に激しくなっていた。彼女は素直に耐え切れず、道端にあるクワンタッキーに入ろうとしたが、ふと「北門鎮鑰」の字が彫られた城壁の下に、一人の女性が城壁を見上げながら立ち尽くしているのに気付いた。	102.從長城下來時，雪下得愈發猛烈，她不耐久寒，正要走進路旁的青德基取暖，突然發現刻著「北門鎮鑰」四字的城門之下有一女子兀立，獨自抬頭仰望著蒼涼的城壁。183頁
103.私の傍にいるのに相応しい男にならな、二月二十一日に万里の長城の下で待つてくれるってね157頁	103.如果我成為一個配得上妳的男人，有能力回到妳身邊，我會在二月二十一日這天，在萬里長城下等候。185頁
104.彼女でさえ、烏仁図婭の物語にある種のノスタルジアを感じずにはいらなかった。	104.就連身為台灣人且並非當事人的她，也不由得對烏仁圖婭的故事感到一種近於思鄉的懷舊之情。186頁
105.彼女はぼんやりと窓の外を眺めた。	105.她靜靜地望著窗外的風景，等待遊行的開始。188頁
106.「僕は色んな国に旅行したんですが、アメリカの多様性、西ヨーロッパの優雅、日本の清潔と利便性、そして台湾の治安の良さ、色んな国の良さを併せ持つのがシドニーだと、僕は思います」162頁	106.「我以前也去過不少國家旅行，發覺其實每個國家都各有優缺點，但住在雪梨，我覺得，雪梨兼有美國的多元、西歐的優雅、日本的清潔與便利，以及台灣的良好治安，好多國家的優點都有了。」191頁
107.人々は顔を凝ばせながら、互に「ハッピー・マルディ・グラー」と言い合った。	107.人們臉上掛著燦爛的笑容，不管認識不認識的人打了照面就互道「Ha ymi y Mardi Gras」193頁
108.セクシュアル・マイノリティ支援団体や企業に加え、肉店労働者、医師、消防士、警察、軍人など、セクシュアル・マイノリティの人達による様々な職業の連盟が、それぞれの制服を着用してパレードに参加していた。	108.支持性少數的各種團體和企業當然有各自的隊伍，此外還有制服團體、醫師、消防隊員、警察、軍人等各種行業的性少數者聯盟也動員了起來，穿著各自的制服走在遊行隊伍裡。194頁
109.東京のパレードでも警察やパトカーが見られるが、それは秩序維持のために出勤させられるものだ。	109.東京的遊行也可以看到警察和警車，但他們出動是為了維持秩序，為了把遊行隊伍的領域和日常生活領域隔開。194頁
110.パレードを眺めながら、彼女はそう考えた。	110.望著緩慢前行的遊行隊伍，她心中如此想道。194頁
111.夕方の陽射しがハイドパークの薔木に降り注いで眩しく照り返し、芝生の中で何組かの家族連れやカップルがピクニックしていた。	111.夕照灑在海德公園的群樹之上，反射出炫目的閃耀橙光，草地之上坐著幾組情侶與家庭悠閒野聚餐。喧鬧祭典過後，一切歸於日常。215頁
112.万里の長城に永久の愛を誓い、誓え立つ城壁の下で結ばれるのは、157頁	112.萬里長城萬里長，面對著永垂不朽的長城，立下永世不渝的海誓山盟，讓長城守候彼此今生今世。186頁
113.ふと微風が吹き抜けたのを感じて、彼女は思わず空を見上げた。	113.一陣微風吹過揚起了她的髮梢，她不自覺抬起頭，望向天空。215頁

F 言外の意

F-1 心理・感情の投影

1.お金も無いし、日本語もできないでしょ、と考え直すように説得されたりもした。	1.又是企圖說服我，說我沒錢又不會日文，去日本做什麼？33頁
2.更に日が経つと粉塵も色気が消え、淡い灰色の煙となり果てた。	2.又過一段時日，就連色彩也從粉塵剝落，輪廓化成一片毫無生氣的淡灰煙霧。
3.しかしそのカウンセリングルームでさえ、彼女に靈安室の白を連想させたし、二週間に一回のカウンセリングも彼女にとって苦痛だった。	3.但就連那個心理諮商室使她聯想到太平間的死白，兩週一次的心理諮商治療對她而言只是徒增苦痛。36頁
4.あの時丹辰が弾いた曲はたしか、モーツァルトの「レクイエム」だった。	4.當時丹辰所彈奏的曲目，印象中似乎是莫札特的《安魂曲》。38頁
5.「紀恵ちゃんこそ、なんでこんな時間にこんな所で？近くに住んでるの？」と、陰梨香は訊き返した。	5.「紀恵妳呢，為什麼這種時間會出現在這裡？妳住在附近嗎？」繪梨香趕緊轉換話題回問道。43頁
6.青少年向けの文芸誌に掲載して、掲載されたこともあった。	6.有時投稿青少年文學刊物，竟也幸運地獲得刊登。47頁
7.勉強と文学以外の生活はほぼ無いし、セクシュアリティーは依然として誰にも打ち明けずいたが、さしたる災難もなく、優秀な成績で台中市にある名門女子校、台中女中に入学した。	7.雖然她生活簡單，除了念書便是文學，也從未對人提起過自己的性取向，但國中三年下來卻也沒什麼大災難。她轉眼以亮眼的成績上位於台中市的明星女校，台中女中，48頁

8.七十歳になっても、世界で一番見渡しの良い崖を見つけて、一緒に飛び降りよう。36 頁	8.我們一起活到七十歲，然後再找一個世界上視野最開闊的懸崖往下跳。一起告別這世界。」52 頁
9.少なくとも、彼女は同期のように未来を語る事ができない。5 頁	9.至少，和她同時期進校的同事在談起未來時，便彷彿死亡的陰影永遠攔截不到她一般。20 頁
10.先生はクラス全員に三分間黙禱するよう指示した。クラスが静寂に包まれる間、彼女は思考を巡らせていた。死んだ丹辰はどこに行ったのだろうか。11 頁	10.班導要求全班閉眼默哀，在整間教室為寂靜所包圍的三分鐘內，她不斷地思考著，死去的丹辰究竟去了哪裡？27 頁
11.彼女は思った。嗚呼、もう丹辰には永遠に会えないのだ。13 頁	11.那瞬間她真正明白，自己永遠再也見不到丹辰了。29 頁
12.彼女はツッコミを入れてみたが、心中満更でもなかった。36 頁	12.她笑著吐槽道，心中卻滿是喜悅。53 頁
13.「彼女の作品が彼女の死に意味を与えたと言えるかもね。もしそれも無くて、ただ死んでしまったら、何だか寂しいと思わない？」38 頁	13.「或許也可以說，她的作品賦予了她的死亡以意義。若人就是死了而什麼都沒留下，不覺得等於虛活一年嗎？」55 頁
14.生の苦しみはまだ我慢できる範疇を超えていない。40 頁	14.生之苦痛尚未超出心靈所能承載的範圍。57 頁
15.それを聞いて黙り込んだ絵梨香を見て、彼女は言い過ぎたのではないかと、心配になった。43 頁	15.繪梨香聽了陷入沉默，不發一語。她有些後悔，擔心自己是不是把話說得太過頭了。60 頁
16.人前ではよく強がっているけれど、彼女だって痛みを感じるし、傷付くことを恐れる。45 頁	16.在人前，她雖總是藏起脆弱的心，逞表面的強，但她也是個人，也會痛，怕受傷。63 頁
17.絵梨香の目には、彼女もまた普通の女の子に映っているということ、彼女は忘れていた。44 頁	17.她也忘了，自己在繪梨香眼中也不過是一個普通的女孩，一個會渴望男子的潛在敵手。61 頁
18.普通の人間のように育ち、結婚し、子を授かることができないからこそ、未来に対するイメージが掴めず、それが死への想像に繋がる。50 頁	18.是否，因為她無法如正常人一樣成長、結婚、生子，對自己的未來懷抱不了具體的意象，才會不知不覺將一切對未來的想像都導向死亡與消滅？68 頁
19.大学に入ったら一緒にバレーボールに出よう和小雪と約束を交わしました。51 頁	19.她也和小雪約定，等上了大學後一定要一起參加遊行，向世界展現同志的驕傲。69 頁
20.小雪は少し顔を置いて、彼女の方に顔を向けた。驚いたことに、小雪の目は涙ぐんでいた。52 頁	20.小雪略頓了頓後，抬起頭直視向她，她也望向小雪，心中猛地一抽。小雪的眼裡不知何時已泛著晶瑩的濕光。70 頁
21.彼女は奇跡を信じるほどロマンチストではない。しかしあの時だけは奇跡を渴望していた。53 頁	21.她也不是什麼相信奇蹟的浪漫主義者，但此時此刻她打從心底真正渴望著奇蹟的存在。72 頁
22.「でも、両親の期待だけじゃない。私もあの杜鵑花城に入りたい、迎梅と同じ大学に行きたい。だから……」55-56 頁	22.「但，也不只是父母的期待，我自己也想進那所杜鵑花城，想和迎梅上同一所大學。所以……」小雪停了一下，她感覺到小雪握住自己的手又緊了一些。74 頁
23.気が付いた時、男は既にいなくなっていた。その代わりに深刻そうな表情をした人達が彼女を見下ろす格好で固んでいた。58 頁	23.當她恢復意識時男人已經消失，卻又有許多不認識的人神情嚴肅地將她圍住，低頭看著她。77 頁
24.太陽花學運の時も先鋒として真っ先に立法院に突入し、院内で中日通訳を担当して、動画配信サイトを通じて運動の様子リアルタイムで日本に伝えていた。63 頁	24.太陽花學運時也作為先鋒衝進立法院，之後又在院內擔任中日口譯，將院內狀況透過網路直播介紹給日本，試圖引起關注。81 頁
25.隊列の先頭を行くフロートが賑やかなクラブミュージックを流しており、フロートの上で派手な衣装を身に纏うドラァクワオン達を披露していた。64 頁	25.隊在前頭的前導車播放著熱鬧的夜店音樂，車上幾個變裝皇后穿著華麗衣裳，一身妖氣地跳著騷舞。83 頁
26.あの二月の月曜日の翌日、絵梨香は朝一で謝りに来た。65 頁	26.二月初二個不歡而散的星期一之後，隔天一早繪梨香便來找她道歉了。83 頁
27.本当は、今の自分の状態はまともじゃないということくらい、理性では分かっていた。それを認めるのが怖くて、彼女はずつとそのことから目を背けてきた。しかし、小雪に指摘されることによって、彼女は嫌でも認めざるを得なかった。76 頁	27.其實在理智上她也明白，自己現在的狀況絕對不算正常，但她害怕承認，怕承認自己確實溢出了常軌，因而強迫自己不去直視自己的精神狀態。然而小雪的話語，卻逼得她不得不正視面對自己的內在現實。95 頁
28.いっそ包丁で刺し貫きたいくらい心が痛かった。78 頁	28.心臟痛得讓她好想拿把菜刀插進去止痛。97 頁
29.翌日、彼女は台大附風病院の精神科に通い始めた。78 頁	29.隔日，她終於下定決心，到台大醫院掛了精神科門診。97 頁
30.初めは、自分がようやく長い旅路を終え、天に良縁を授かったのだと思った。78 頁	30.起初她還以為，自己終於獲得上天的一點垂憐，得賜一段良緣，終結長久以來流浪般的旅程。98 頁
31.海を渡ってまで過去の影から逃れようとする努力が実り、ようやく自分の全てを受け入れてくれる人に出会えたと思った。78 頁	31.她以為，自己為了逃避過去的暗影不惜飄洋過海的覺悟與努力終於修成正果，得以邂逅一個全心全意接受並愛惜她的靈魂。98 頁
32.「君がための借しからさしり命さへ、長くもがなと思ひけるかな。不思議だね、薫ちゃんと一緒にいると、まだ死にたくなと思えるの」83 頁	32.「隨在自今生何借，為逢紅顏命可拋，今為君故分欲還期。」她想起會讀過的這首和歌，便順口念了出來。「真不可思議，只要在妳身邊，我就會覺得還想活下去。」103 頁
33.坂道の周りには樹木が沢山植わっており、濃密な木陰で一気に涼しくなった。101 頁	33.坡道四周種滿了碧綠的植株，濃密的樹蔭使得外面的暑熱剎那間涼爽了下來，彷彿是不同的兩個世界。124 頁
34.今日は思い切り沈み込んでもいいが、明日までには気分を晴らせ。40 頁	34.今天妳就在悲傷裡好好沉淪吧，明天可得回復如常。56 頁
35.しかしそれと同時にほっともしていた。40 頁	35.然在憤怒的同時她也略緩了心。57 頁
36.私のことを何も理解していないのに、何故このような負の感情を向けられなければならないのか。44 頁	36.為什麼眼前的女孩明明對我一無所知，卻有權利將她的負面情緒拋擲於我？61 頁
37.言い訳の一つくらいはさせてほしいかったのだ。44 頁	37.單方面丟下那些話語後不給人解釋空間，站起身就想走，未免也太狡猾。62 頁
38.もしあの夜に少しでも光があったなら——思い出す度に、彼女はそんな想念に苛まれた。47 頁	38.如果那個夜晚裡有少許的光芒，或許——每每回想起「災難」，無數的「或許」便竄上來折磨著她。65 頁
39.会場の教室内ではエアコンが効いているが、外はそうも行かない。48 頁	39.會場內雖有空調，卻苦到場陪考的父母兒姊男女友友，一個個在陪考區不停地擦著汗，靜待時間的流逝。66 頁
40.逢甲夜市は台中中からバスで一時間かかるから、普段はあまり行かないが、その日は二人とも何となく夜中で食べ歩きたい気分だったので、行くことにした。49 頁	40.逢甲夜市距離台中中較遠，公車要搭上一個小時，因此兩人平時不大常去；但那天，大考的落第讓兩人都處於一種近似亢奮的狀態之中，渴望著某種非日常的活動，想任性一次，放縱自己在夜市裡暴飲暴食。66 頁
41.十八年間も語彙を蓄積してきたのに、肝心な時にそんな陳腐な言葉しか出てこないことを、彼女は歯痒く思った。53 頁	41.累積了整整十八年的語彙，到了真正需要的時候竟擠不出這種陳腐措辭，不禁使她由衷咒咒起自己的笨拙。71 頁
42.政治大学の文学部にどんなコースがあるかなんて問題ではないはずだ。54 頁	42.問題根本不在政大文學院有多少科系，又出了多少名人，而是約定。72 頁
43.だとすれば、他に掛かるべき言葉があるのではないか。54 頁	43.這道她懂，但為什麼她就是找不到更合適的話語來安慰小雪？72 頁
44.小雪はいつも凛としていて、我が道を行くように振る舞っているから、家族に性的指向や恋人を認めてもらいたいという願いが小雪にもあることに、彼女は気づいてあげられなかった。55 頁	44.小雪平時總是正氣凜然，一副對他人眼光毫不在乎的樣子，因此她便忽略了小雪也是常人，也希望自己的性取向與伴侶能得到家人的認同。73 頁
45.何かついてきて死に懸かると、先のことを虚無視する彼女とは違い、小雪は二人のために将来のことを考えているのだ。55 頁	45.她總想著死，未來對她不過是自己到不了的一片虛無空曠的荒野，但小雪與她不同，為了守護兩人的關係，小雪並不耽溺於當下，也不醉心於虛無，雙眼看著的是現實的未來。73 頁
46.薫が彼女に気づいたかどうか分からないが、自分が依然として怯えていたことを彼女は思い知らされた。67 頁	46.她不知道小雪是否注意到她了，但與小雪的偶遇使她更加清楚明白，自己依舊懼怕，懼怕著小薰，懼怕著小薰所象徵的「拒絕」，以及導致「拒絕」的「災難」本身。86 頁
49.小雪は珍しく声を荒らげた。彼女はびっくりした。76 頁	49.小雪突然大叫出聲，使她心裡一驚，安靜了下來。記憶中小雪對她如此大吼，這還是頭一遭。95 頁
50.彼女は既に小雪に助けでもらった。77 頁	50.小雪已經拯救她、包容她太多太多了。96 頁
51.そんな小雪を失いたくない。ここは小雪に謝って、病院に行くことを約束すべきだ。小雪の負担にならないように、せめてその努力はすべきだ。77 頁	51.她不想失去小雪。她知道自己正站在維持與喪失水瀕上，為了不要讓自己倒向喪失的那一邊，她應該答應小雪去醫院，治好自己；應該努力讓自己保持健康，避免造成小雪的負擔；96 頁
52.昔は私のための呼び名だったのに、今や広範囲にまで使われているなんて、深く落ち込んで今でも記憶している。104 頁	52.第一次在點數網站上發現小雪的名字時，一想到「小雪」從前是專屬於我的親暱稱呼，而現在竟已成了登在網站上供大家叫喚的公開名號，心中就止不住一陣落寞。128 頁
53.久しぶりに小説を書こうとしたが、上手く行かなかった。思うようにストーリーも中々浮かばなかった。105 頁	53.許久沒寫小說，突然心動一動，又想寫作了。打開電腦試著寫了幾行，卻總寫不上手，心裡積蓄了二十年的詞彙庫像是生了鏽般硬打不開，小說情節的靈光也總不閃現。129 頁
54.陳先生は少し顔を置いて、再び話した。「『忘却』も良いですが、『和解』という言葉についても、考えてみては如何ですか？」112 頁	54.陳醫師略頓了頓後，又繼續說道：「我明白你找到的『遺忘』這個答案了，不過請你也思考一下『和解』這個詞，好嗎？」137 頁
55.結果こそ悲惨だけれど、少なくとも薫には打ち明けられた。119 頁	55.雖然結局悲慘，但至少她已努力過，對小薰坦白了「災難」始末。145 頁
56.頭の中で白い閃光が走り、胸が詰まるのを感じた。130 頁	56.一道白色閃光在她腦中劈過，緊接著就是一片空白。她感到胸口一緊。156 頁
57.この吐きさ、と思いきり怒鳴りたかった。それでも平穏を装って、幸せになつてね、と言わなければならなかったのだ。146 頁	57.我好想乾脆大聲罵她：妳這個騙子！但我沒辦法，我必須假裝冷靜，假裝成熟地祝福她。希望妳能幸福。174 頁
58.先にシャワーを浴びた彼女は、キャロリンの元カノのTシャツとジーパンを身にまとい、キャロリンの部屋のベッドに座っていた。148 頁	58.她先洗了澡後，穿上 Caroline 遞給她的前女友的T恤和牛仔褲，坐在 Caroline 房間的床上出著神。176 頁
59.浴室からもシャワーの水音が聞こえてきて、その両方に包み込まれているとどこか現実離れた気持ちになって、ここにあるもの、ベッドや窓、椅子や机、全てが実体を伴わない虚像のように一瞬思われた。148 頁	59.浴室也傳來淋浴的淋淋水聲，被這兩種水聲包夾其中，她恍惚惚失去了現實感，陷入一種錯覺，彷彿眼前所見的一切事物，包括床、窗戶、椅子、書桌，全都是某種不具體的虛像。176 頁
60.しかし、現実の鏡で照らせば、そんな夢語りなどとも簡単に破綻する。157 頁	60.然而，浪蕩歸浪蕩，正如魘魘魘魘必得於惡妖鏡前現出原形，這類纏綿夢夢也終究經不起名為現實的鏡面映照。186 頁
61.つまり、二人は最初から会えそうにないのだ。157-158 頁	61.也就是說，除非奇蹟顯現，否則兩人根本無法見面。186 頁
62.男の中国語は明らかに台湾訛りを帯びていた。160 頁	62.男性才子的中文帶著明顯的台灣腔，因此她估計兩人是看出了她是台灣人，才向她搭話的。189 頁
63.紀惠も来るかもしれないと思って、私も裁判を傍聴しに行ったの。179 頁	63.开庭時我去旁聽過，因為我覺得紀惠她可能也會來，我就能見到她。210 頁
64.紀惠が一番辛かった時に、私はと言えば自分の生活にばかり没頭していた。180 頁	64.在你最艱難的時候，我就只顧著埋頭於自己的生活之中，沒能為你做點什麼。211 頁
65.その事実を思い出す度に、彼女は居ても立っても居られなくなった。131 頁	65.這個事實使她坐立不安。157 頁
66.癒えるならば、空気の匂いや、太陽光の入射角、空中に浮遊する微粒子のようなものだ。131 頁	66.具體是什麼不一樣了她也說不上來，那種細節的變化彷彿空氣的氣味、陽光入射角，或是浮游空中的微粒一般。158 頁
67.丸三日間、彼女は昏睡と覚醒を繰り返す以外何もできなかった。136 頁	67.整整三天，她除了重複著昏睡與醒覺之外，沒有絲毫從事任何生命活動的餘力。163 頁
68.意外と不安は無かった。それまで彼女を苛んできた恐怖も見る影もなく消え失せた。138 頁	68.種種不安的陰影漸漸從她心裡消失，那些不斷折磨她的恐懼也早已消散。165-166 頁
69.丸三日間、彼女は昏睡と覚醒を繰り返す以外何もできなかった。136 頁	69.整整三天，她除了重複著昏睡與醒覺之外，沒有絲毫從事任何生命活動的餘力。163 頁
70.意外と不安は無かった。それまで彼女を苛んできた恐怖も見る影もなく消え失せた。138 頁	70.種種不安的陰影漸漸從她心裡消失，那些不斷折磨她的恐懼也早已消散。165-166 頁
71.そんな古典文学でしか讀んだことのないような純愛物語が、実際に二十一世紀に存在しているのが、彼女には不思議だった。157 頁	71.她對女子的故事大為動容，這種彷彿只存在於古典小說裡的純愛故事，竟然真實存在於二十一世紀的今日。186 頁
72.鳥仁因煙草なら、きつと夜が明けて、曙光が暗闇を追い払ってくれるまで待てるだろう。158-159 頁	72.鳥仁闔煙草定能堅強地走下去，直到黎明的第一道光為她驅散黑暗為止。187 頁
73.近くの高層マンションの住人も各自のベランダにレインボーフラッグを飾っており、街全体が虹色に染まっていた。159 頁	73.附近的高樓公寓許多戶都在陽台掛起了彩虹旗，整條路洋溢著彩虹色的活力。188 頁

74.今なら書ける気がした。183頁	74.耗費了十年，她有種預感，覺得自己終於寫得出來了。215頁
75.風風木が燃え盛る季節になっても、死に物狂いで猛勉強を続ける小雪を見ると、彼女は心が傷んだ。47頁	75.熾烈炎陽點燃了風風樹，燒開一路的火紅，小雪卻仍不分晝夜地泡在圖書館，埋首書堆之中。每當看到小雪帶著滿臉倦容，拖著一袋書從圖書館走進月色中，他便感到一種心痛。65頁
76.そうと分かっている、彼女は記憶に懸命に鈍り付こうとした。それができらうちは、空はまだ青くられるし、世界はまだ鮮やかに感じられた。19頁	76.即使如此她除了仰賴記憶維生之外別無他法，在記憶過期之前，天空仍然蔚藍，世界依舊鮮明。35頁
77.しよちゃんにはどのような顔で接すればいいか、気持ちを整理する必要もある。183頁	77.她並未對小書心存怨恨，但今後該如何面對小書，她仍必須整理好自己的情緒才有解答。214頁

F-2 文化翻訳

F-2-1 日本及び日本語の文化翻訳

1.「超ノリノリの超紀恵です。台湾から参りました。でもタピオカミルクティーもパイナップルケーキも大嫌いです。」8頁	1.「我是非常興高采烈(Cho Norinori)的超紀惠(Cho Norie)，來自台灣。啊不過別搞錯了，我超討厭珍珠奶茶和鳳梨酥的。」23頁
2.新宿二丁目のリスというバーで、彼女はしよちゃんと飲んでいた。「小恵」は彼女がセクシュアル、マイノリティの世界で使っている中国語のハンドルネームで、「日本語のハンドルネーム」は「リノ」だった。頁14	2.她與小書在新宿二丁目一間名為Liith的酒吧裡小酌。「小惠」是她在性少數團體使用的中文暱稱，日語的暱稱則是リエ。Rie, 理惠。頁29
3.「超さんまだ帰らないの？」46頁	3.「超紀惠你還不下班啊？」63頁
4.超紀恵「紀恵」なら、中国語では紀恵と読めるし、日本語では紀恵と読める。115頁	4.超紀惠。「紀惠」這名字，中文讀作「紀惠」，日文也可讀作「りえ(Norie)，兩者都相當自然。140頁
5.しよちゃんは本名が李書柔で、「書」は日本語で「しよ」と読むことから、日本ではしよちゃんと呼ばれている。中国語では小書と呼ばれたりするが、「おじさん」の意味の「小叔」と発音が似ているから、本人はあまりそれを広めたくないらしい。頁14	5.小書本名李書柔，由於「書」在日文讀作「sho」，因此在日本大家都稱她 Sho-chan，翻成中文便是「小書」，所以懂中文的人也有人會用中文稱呼她「小書」，但由於「小書」與「小叔」音近，因此本人似乎不大希望這個稱呼傳開。頁29
6.親中ではない民進黨が政権を執ることで日台の連帯が更に強化する見込みだが、中国の影響力もやはり無視できない。など如何にもグローバル人材っぽい話もした。28頁	6.她演著她「國際化人才」的角色，闡述著在日本人聽來具大風險的看法，執政的民進黨不像國民黨那麼親中，台日的來往交流可望因此強化，但中國的影響力仍然不容小覷等等。44頁
7.三年半も東京に住んでいれば、大晦日の電車が終夜運転であることくらい、彼女は分かっていた。82頁	7.但畢竟她東京也住了三年半了，自然很清楚，跨年夜的電車是通宵行駛的，沒有所謂錯過末班車這回事。102頁
8.「君がため惜しからざりし命さへ、長くもがなと思ひけるかな。不思議だね、薫ちゃんと同じように、まだ死にたくないと思えるの」83頁	8.「憶住日今生何惜，為逢紅顏命可拋，今為君故分欲還期。」她想起會讀過的道和歌，便順口念了出來。「真不可思議，只要在妳身邊，我就會覺得還想活下去。」103頁
9.「それ、告白？」83頁	9.「妳是在告白嗎？」她問。據說日本作家二葉亭四迷將英文「I love you」翻成「死了也無妨」。104頁
10.「くたばってしまえ」ふうに言われても嬉しくないか」83頁	10.「被名叫『見鬼的去死吧』的人這樣講，也開心不起來對吧。」小薰笑著說。據說二葉亭四迷這筆名，正是取「見鬼的去死吧」的日語諧音。104頁
11.「初めまして、私の名前はキャロリンです。宜しくお願いします」「キャロリン」は英語の発音になっていたから、キャロリンに聞こえた。144頁	11.「初次見面，我的名字是Caroline，請多多指教。」「Caroline」這名字時時沒以日語節音發音，而偏向英語的發音。171頁

F-2-2 台湾の文脈の詳細を補う文化翻訳

1.小学校をあまりにも酷い成績で卒業したこともあり、彼女の精神状態を案じた両親は、彼女を都市部の進学校ではなく、家の近くにある地域の中学校に入れた。30頁	1.由於小學畢業時的成績實在太過糟糕，她的父母擔憂她的精神狀況，於是便沒讓她上位於市區的名校，而是順應學區，上了離家不遠的國民中學。46頁
2.そうやって名門高校に進学する生徒を無理矢理にでも作り出し、合格発表日に「祝！〇〇高校合格者〇〇人」という巨大な広告を校門の横に出すのだ。30頁	2.大人們費盡心思想強將學生塞進明星高中裡，然後在放榜日那天，在校門旁貼出大紅色的「狂賀！〇〇考生〇〇高中！」巨幅廣告。46-47頁
3.部活も無ければ修学旅行も無い。勿論恋愛禁止。30頁	3.社團，沒有。畢旅，沒有。校規嚴禁戀愛，違者大過。46頁
4.体罰や恫喝・罵倒は毎日のように行われ、テストの点数が悪いと(「悪い」の定義は概ね、百点満点中九十点にならないことを言う)鞭で掌を叩かれる。30頁	4.訓導主任和各科教師高高在上，對學生的身體進行着絕對的支配，校園中每天都能看到有人在青蛙跳、鴨子走(當然真正的青蛙鴨子半隻也沒有)，或是在訓導處前挨罵挨板子，考試一個不小心考差了(所謂「考差」的定義，就是考不到九十分・滿分一百)就得吃一頓竹筍炒肉絲。46頁
5.「うん。晴れた日には柳林大道で自転車走らせ、雨の日には総合図書館に引き籠もろう。月が出ていれば静月湖で月見をし、出ていなければ温州街で散歩をしよう」48頁	5.「等我們進了那座杜鵑花城，晴了就在柳林大道上騎車兜風，雨了就退守圖書館唸詩寫字，晚上有月亮可看就到靜月湖賞月，沒月亮可看就到温州街去散步吧。」65頁
6.時值下班放学的尖峰时段，公車内擠得前胸貼後背，幾乎動彈不得。公車在頻繁的道路上走走停停，不時來個緊急煞車，行進的步調善變得像雲霄飛車一般，但只要讓小書牽著手，她便感到心裡一片平靜。66-67頁	6.時值下班放學的尖峰時段，公車內擠得前胸貼後背，幾乎動彈不得。公車在頻繁的道路上走走停停，不時來個緊急煞車，行進的步調善變得像雲霄飛車一般，但只要讓小書牽著手，她便感到心裡一片平靜。66-67頁
7.個人的苦悩は政治とは決して切り離せないということも、邱妙津はよく分かっていた。もしゾイドパレードが発足した二〇〇三年まで生きていたら、きっと彼女はセクマイ運動の旗振り役になっていたと思う。62頁	7.但她很清楚個人苦惱與大環境的政治是無法進行切割的，如果邱妙津活到台灣同志遊行開辦的二〇〇三年，肯定會成為性少數運動的旗手。」81頁
8.「中山可憐だよ。日本の小説家。もう、名前が小書というくせに、全く本を読まないんだから」63頁	8.「是中山可憐啦，麥穗的穗，日本的小說家。真是的，看你平日都不讀書，虧你還叫小書呢。」82頁
9.話が一段落ついた後、彼女は笑みながらそう言った。80頁	9.話說到一個段落，她笑著以日文訓讀法引用了李商隱這句詩。100頁
10.現実的には何の意味も無い、馬鹿げた戯言だと分かっている、彼女は甘んじてそれに溺れようと思った。85頁	10.她明白這類類人之間的絮語並不包含任何現實意義，純粹就是蠢笨的夢癡，但即使如此她也甘願沉醉其中。106頁
11.ただ、三か月間の在留期間も残り僅かとなり、焦った挙句、衝動に駆られて小指の先を切るという行動に出たのだという。127頁	11.然而一轉眼三個月的免簽證時期將屆，頭頂一個焦急，才會在衝動之下切下自己的小指，在小書生日當天對她血誓。153頁
12.三週間後、連休明けの職場。副、オフィスに入った瞬間、彼女はある種の異様な空気をを感じ取った。131頁	12.連假結束後的職場。踏入辦公室的瞬間，她便感到有股不同於常的氛圍。157頁
13.「人によるけど、クリスチャンには迂闊に言えないよ。でも、もう大丈夫。それに」144頁	13.「要看人，如果對方是基督徒我就得小心考慮要不要出櫃。不過反正現在都無所謂了。而且。」172頁

二、省略

G 背景の詳細を省略する

1.結れることなく湧き出る命の源泉に、彼女は思考を詰め、ただただ身を任せていた。39頁	1.將自己的全心全意都託付在小雪那汨汨湧出未曾枯竭的生命源泉裡。55頁
2.しかし世の中には何の意味も無く、ただ起こってしまった、そういうことだけである。39頁	2.但在這世上也有毫無意義可言的，就只是發生了的事件。
3.卒業式は六月だったが、小雪は七月に試験があるから卒業式の後も毎日学校に通って勉強していた。50頁	4.六月的畢業典禮之後，小雪仍每天到夜念書，直到七月指考。68頁
4.「貴方運もマルディ・ダラのためにシドニーに来たんですか？」彼女は二人に訊いた。161頁	5.「你們也是專為狂歡節來的嗎？」她向兩人問道。191頁
5.それより十年ぶりに小説を書いてみたい。183頁	6.比起那些閒話，她現在更想寫小說。214頁

H もともと中国語で説明が省略

1.しよちゃんはリモコンを取り、一方の音楽ユニット・F.I.R.の曲「刺鳥」を予約した。18頁	1.小書拿過遙控器，點了飛兒樂團的〈刺鳥〉。34頁
2.「内離」——内なる離れ、ががが他方を含んでいるように見えるが、いくらその軌跡を辿って回っても、両者は永遠に交わらない」と相産は言った。162頁	2.「內離」。相產接著說，「雖然一樣事物包含著另一樣，但兩者的軌跡卻永不相交。」192頁
3.しよちゃんの本名が李書柔で、「書」は日本語で「しよ」と読むことから、日本ではしよちゃんと呼ばれている。中国語では小書と呼ばれたりするが、「おじさん」の意味の「小叔」と発音が似ているから、本人はあまりそれを広めたくないらしい。頁14	3.小書本名李書柔，由於「書」在日文讀作「sho」，因此在日本大家都稱她 Sho-chan，翻成中文便是「小書」，所以懂中文的人也有人會用中文稱呼她「小書」，但由於「小書」與「小叔」音近，因此本人似乎不大希望這個稱呼傳開。頁29

三、書き換え

I 成語、故事、慣用句

1.あるいは高層ビルから飛び降りて、あるいは鉄道に飛び込んで、あるいは結婚記念日を祝うべくどこかの高級レストランへ急ぐ途中交通事故に遭って。4頁	1.或許有人會從高樓樓頂縱身躍下，有人會在電車疾駛而過的瞬間跳入軌道，又或許有人為了慶祝結婚紀念日，正在前往某處高級餐廳的路上遭遇車禍。18-19頁
2.それ故にある種の親しみも覚えた。7頁	2.也因此對繪梨香懷抱著一種類似同病相憐的親近感。22頁
3.道端に咲いている白い花を目にした時にさえ、丹辰の甘い香りがする。19頁	3.就連偶然入眼的綻放於路旁的白色小花，都讓她彷彿聞到丹辰的甜膩幽香。35頁
4.更に目が経つと粉塵も色彩が消え、淡い灰色の煙となり果てた。19頁	4.又過一段時日，就連色彩也從粉塵剝落，輪廓化成一片毫無生氣的淡灰煙霧。35頁
5.いつからか、彼女は日常茶飯のように泣くようになった。それは読んで字の如く、茶飯の時に何の予兆も無く涙が零れることもあった。20頁	5.不知從何時起，哭泣成了她的家常便飯。家常便飯，顧名思義，即使是在茶飯之時，她也會毫無預兆地落淚。35頁
6.泣き止んだ彼女は立ち上がり、勉強机の前に座り、原稿用紙と鉛筆を取り出した。そして書いた。23頁	6.她終於停止哭泣，站起了身，坐到書桌前，拿出稿紙與鉛筆，開始一字一句地書寫。39頁
7.文理選択による九月のクラス替えの後、新しいクラスに馴染めず、運動会にもさほど興味の無い彼女は、一人でこっそり歓声と拍手の音で賑わうグラウンドを抜け出し、図書館に入った。32頁	7.九月選課後重新編班，她一如往常地無法融入新班級，對運動會也沒多大興趣，便悄悄地溜出操場與歡騰充斥的操場，躲進了圖書館。49頁
8.あの愛いを帯びた漆黒の双眸以外、全てが曖昧な色合いの粉塵となり、風が吹くと何処かへ消えていきそうに危なっかし感じられた。19頁	8.除了那雙帶有愛傷的漆黑眼眸外，一切都像是某種曖昧色彩的粉塵，風一吹便四處飄散，杳無蹤跡。35頁
9.いつもの暖り泣きとは異なる号泣だった。22頁	9.不同於平時的啜泣，這次她無法自己地嘔吐大哭。38頁
10.そのコンビニで何かあったかい物でも買ってこようかと彼女が街道の向かい側にあるファミリーマートを指さして申し出ると、ホットコーヒーをお願い、とか、じゃあホットココアで、とか、あとカイロも買ってきてちょうだい、貼らないやつと、とか、様々な要望が返ってきた。26頁	10.不然我那邊便利店去買點什麼熱的吧？她指著對街的全家便利商店如此提議後，三人便接連三地託她買這買那。我要熱咖啡。那我要熱可可。啊，那也幫我買個暖呼呼包好了，不要貼的那種。42頁
11.同期の繪梨香はともかく、先輩の岡部も一緒にいるという眼前の事態は、彼女は一瞬混乱した。それでも、二人の繋いでいる手を見ると、彼女は瞬時に事情を把握し、27頁	11.和同期進公司的繪梨香偶遇也就算了，岡部前輩竟也在場，這讓她不禁楞了一下；但在發現兩人牽著彼此的手後，事態便已了然於胸。43頁
12.この荘厳さを打ち破らないように、一歩一歩、静かに。33頁	12.她的每一步都輕巧如箭，戰戰兢兢，唯恐一個不小心便打破了空氣裡的莊嚴。49頁
13.「愛」という、三百年程度の超短編だが、不思議なほどに切ない作品だった。33頁	13.「愛」，不過三百年左右的極短篇，讀來的蒼涼況味卻極為深刻。50頁
14.彼女が最近張愛玲を読んでいること、そして「愛」が非常に気に入っているということと、目の前の女の子は知っているのだ。33頁	14.她最近正在讀張愛玲，累累名作中尤其喜歡《愛》，在筆記本裡寫了數次。這一切，眼前這個少女曾讀過的女孩肯定都了然於胸。50頁
15.彼女は元々目立たない存在で、授業の合間の休憩時間でもいつも席で本を読んでいて、同級生と一緒に遊ぼうとしないうち、登校も下校も一人だった。21頁	15.她原本就不是太醒目的存在，下課時間也總是一個人坐在位子上看書，不大與同學玩耍，上下學也總是獨自一人，獨來獨往。36-37頁

16.繪梨香にとって、今の言葉が発するのに一生懸命だったに違いない。45 頁	16.對內向的繪梨香而言，要擠出方才那番夾槍帶棒的語話，肯定已用盡了全力。62 頁
17.彼女達が共に描いた未来——春の暖かな陽射しの下で牡丹花を愛で、秋の爽やかな風に吹かれながら詩を読み合う。そんな未来だ。54 頁	17.小雪和她約定共同描繪的未來——春暖花開之時在和煦日光之下共賞牡丹，秋高氣爽之際迎著金風吟詠詩詞。72 頁
18.「それで、結婚をしても仕事を続けたら、後ろ指を指されたり、肩身の狭い思いをするのが怖い？」42 頁	18.「所以會擔心，如果結了婚還繼續工作，會不會被同部前輩家裡的人指指點點、說三道四？」59 頁
19.「やっぱりおちちゃんか羨ましい。おちちゃんなら、岡部さんと付き合ってもそんな心配をする必要も無いでしょうね。」すくく自信あり。きつと岡部さんの両親も説得できるし」43 頁	19.「說實話我好羨慕妳，妳和岡部前輩交往肯定會很順利，不像我還要這樣擔心東擔心西的。反正妳那麼有自信，想脫離岡部前輩的束縛一定也不成問題。」60 頁
20.闇に安心感を覚え、闇に悪夢の影を見出してしまふ。47 頁	20.就像黑暗，既如搖籃般使她安心，卻也常防不勝防地輕敲她惡夢的驛影。64 頁
21.高三の二月の学測で、彼女は良い成績を取り、個人申請入試で台湾大学日文科に合格したが、小雪は思っていた点数が取れず、七月の指考を受けることになった。47 頁	21.高三二月學測後，她以優異成績順利申請上台大日文系，但小雪卻在考場失利，不得不考七月指考。65 頁
22.夜中に着いた時にはすっかり夜になっていて、あちこち乱立するネオンの看板が毒々しく光っていた。49 頁	22.到達目的地時夜幕已取代黃昏，夜市裡龍蛇混雜的各色霓虹店招閃爍著刺眼光芒，67 頁
23.彼女は思わず想像した。56 頁	23.一幅景象在她腦海裡浮現，74 頁
24.「そう言われても、見女だから仕方無いじゃん」56 頁	24.「但我就是兒女啊，沒辦法只好沾巾了。」75 頁
25.吊り革を掴み人混みの中で一時間揺られながらも、彼女は心が温まっていた。57 頁	25.伸手拉著吊環站在汗味體味汽油味混雜的公車內忍受著路途顛簸，她心裡卻充滿平靜的溫暖。75 頁
26.帰宅の近道としていつも通っているが、こんなにも暗いんだと彼女は初めて意識した。57 頁	26.總是她每天傍晚放學回家必經之路，她第一次發現這條巷子的夜晚竟是如此昏暗。76 頁
27.それと命の全てを投げ出し、少しも理性の介在する余地が無い自己滅滅的な恋の有り様にして、62 頁	27.還是那種復個人生死於度外，理性毫無干預餘地的飛蛾撲火式的愛情，80 頁
28.「でも邱妙津なら絶対『フェミニズム運動にもダイバーレドにも興味はない』なんてわざわざ書くことはないと思う。」62 頁	28.「但我覺得，邱妙津才不會故作清高地寫什麼『我對女性主義運動或同志運動都沒有興趣』。」81 頁
29.何？中山可睡？そりゃあ、確かに孫中山は大勢の女と寝たんだろうけど、何故今そんな話を？」63 頁	29.「你們在講什麼啊？中山什麼睡？我是不知孫中山睡了多少女人啦，但你們現在講這個幹嘛？」82 頁
30.前に並んでいるしおちゃんが後ろに振り向いて、会話に加わってきた。中国語ができないアキも首を下げながらこちらを見ていた。63 頁	30.排在前列的小書一回頭就沒頭沒腦地問了這麼一句，一旁的亞紀聽不懂中文，滿臉疑惑地望向她。82 頁
31.どうすれば良いかわからず、今にも泣きそうな声だった。71 頁	31.彷彿束手無策的小孩，即將淚水決堤一般。90 頁
32.「そんな昔のことでいつまで沈んでたら気が済むの？」96 頁	32.「都那麼久以前的事了欸，玻璃心」118 頁
33.雪のように白い返信用葉書から、幸せな香りを漂わせていた。120 頁	33.一切都如夢似幻，就連那張調查出席意願的雪白明信片，也彷彿飄著淡淡的幸福香氣。146 頁
34.四人ともパイプ椅子に座っており、警官はパソコンに向かってキーボードを叩いていて、しおちゃんはスマホを弄っていた。125 頁	34.四人都坐在金屬折疊椅上默不作聲，警察面對著電腦螢幕不斷敲打著鍵盤，小書低頭滑著手機。152 頁
35.台北で過ごしていた日々は、私という人間を内側から蝕んでいた。127 頁	35.在台北度過的那些日子，不知不覺將我這個人從內部不斷地、一點一點地啃蝕。154 頁
36.ちょうど大雪が降っていて、飛行機が二時間も遅延したが、お陰で北京の空を覆うヘイズが綺麗に洗い落とされ、雪化粧した万里の長城、紫禁城と大観園を見ることができた。154 頁	36.北京正下著大雪，飛機因而誤點了兩個小時，但多虧了白雪，長年覆蓋北京上空的霧霾被一洗而淨，她因此得以見識到白雪所妝點的紫禁城與大觀園，以及山舞銀蛇的長城。183 頁
37.しかし、現実の羅で照らせば、そんな夢物語なども簡単に破綻する。157 頁	37.雖然浪漫歸浪漫，正如題賦總必得於限賦短韻前現出原形，這類縹緲夢囈也終究起不來為現實的鏡面映照。186 頁
38.「これ、本当なの？」とメッセージの真偽を確認したが人もいた。136 頁	38.也有的是只想湊熱鬧，問了句「這是真的假的？」163 頁
39.「別に良いけど、一つ訊かせて」彼女はふと意地悪をしたい気持ちになり、こう訊いた。150 頁	39.「可以，但妳先回答我一個問題。」她突然想做個壞，捉弄一下 Caroline，便露出了不懷好意的笑容。178 頁
40.城壁の南門である永寧門一帯は、幻想的なランタンと飾り提灯で華やかに飾られ、見物客は長蛇の列どきとされ、長巻を成す勢いで賑わっていた。154 頁	40.城牆南門，也就是永寧門一帶舉辦著燈會，大型花燈與小型燈籠紛紛溢彩流光，玉盞光輝，宛如夢幻。觀賞的群眾大排長龍，熱鬧非凡。183 頁
41.そんな古典文学でしか読んだことのないような純愛物語が、実際に二十世紀に存在しているのが、彼女には不思議だった。157 頁	41.他對女子的故事大為動容，這種彷彿只存在於古典小說裡的純愛故事，竟然真實存在於二十世紀的今日。186 頁
42.万里の長城に永久の愛を誓い、聲え立つ城壁の下で結ばれるのは、157 頁	42.萬里長城萬里長，面對著永垂不朽的長城，立下永世不渝的海誓山盟，讓長城守候著彼此今生今世。186 頁
43.生きるには窮屈過ぎるが、死ぬには未練が多過ぎる。168 頁	43.這世界啊，人要求生則嫌太過狹窄拘束，要求死卻又太多纏戀牽絆。197 頁

J 比喩

1. 白い丹辰はいつも朦朧とした表情をしていて、喜怒哀楽が全く読めず、動きもどこか危なっかしく感じられ、次の瞬間にでも消えてしまいそうだった。10 頁	1.肌膚白皙的丹辰總是一副朦朧神情讀不出喜怒哀樂，舉手投足看起來都恍恍惚惚，彷彿下一個瞬間便會消失無蹤的那股充滿不安全感。25 頁
2. 秘めやかな知性の光を纏い、喜びとも怒りとも付かない穏やかな表情が印象的な女の子だった。52 頁	2.暗雪渾身隱隱散放著知性的光，表情平靜一如湖面，分不出是喜是怒，令人印象深刻的一個女孩。48 頁
3. 宙に浮遊する埃の微粒子は太陽に照らされ、光の粉のように見えた。まるで絵画のような景色だと、彼女は思った。32 頁	3.空氣裡的微塵在陽光照射下看像點點光粉，守護般的包圍著暗雪，多像幅畫，她心想。49 頁
4. 「実際に働いてみれば分かるんだけど、台湾ではまるで夢が見えない。見られないんだよ。毎日のようにパイプの群れに混じって仕事に行くと、へとへとなるまで働いて、それでいて辛うじて肌死にしないくらい給料をもらって何となく生活を楽しんで……」17 頁	4.「如果你在台灣工作過就知道，台灣讓人作不了夢，連夢想的尾巴都看不到。每天起床就是夾在一大群機車去上班，工作累得像狗一樣，領那一點也不夠不死的薪水勉強維持生活……」32 頁
5. 嵐風木が燃え盛る季節になっても、死に物狂いを奮起を続ける小雪を見ると、彼女は心が傷んだ。47 頁	5. 激烈炎陽點燃了風雨樹，燒開一路的火紅，小雪卻仍不分晝夜地泡在圖書館，埋首書堆之中。每每看到小雪帶著滿臉倦容，拖著一袋書從圖書館走進月色中，她便感到一陣心疼。65 頁
6. カウンセラーの先生が彼女の心に踏み込もうとし、異常行動の原因を探ろうとしていたが、いつも見当違いの質問をしてくるのが彼女にとっては滑稽だった。20 頁	6. 心理諮詢師嘗試圍繞她重重上鎖的心扉，探尋異常行為的原因，拋來的問題卻總是不得要領。這也使她感到相當滑稽。36 頁
7. 邱妙津の本に出会ったのは中学生の頃だったのが、気づいたら彼女が自ら命を閉じた二十六歳という峠をも越えていた。25 頁	7. 初讀邱妙津作品是在國中時期，但轉瞬間她竟已活過邱妙津圖上自身生命之書的，名為二十六歲的山嶺。41 頁
8. 胸の底からこみ上げてくる運る願無さを噛み締める。29 頁	8. 悲傷如白蟻，在心口啃蝕了個大洞。45 頁
9. 記憶の海底に埋葬しようとしても、影の影はいつまでもどこまでも追い掛けてくる。29 頁	9. 暗影隨形，即便企圖將之埋葬於記憶海底亦屬徒勞，兩千公里的海洋也阻不住它的追隨。45 頁
10. 絶望に埋没した時でも、彼女の中には絶望に溺れる自分を見下ろすもう一人の理性的な自分が存在した。40 頁	10. 即使是埋沒在絕望泥沼裡的此時，她仍感到體內有另一個理性的自己，正從高處俯視著在絕望裡掙扎的她。56-57 頁
11. けれどもラブアンドピースとか、イット・ゲッツ・ベターとか、それら心が躍るような聞こえの良いスローガンは悉く、彼女には現実味が感じられなかった。60 頁	11. 然而不論是 love and peace or it gets better，這類中聽得使人心生雀躍的口號，在她聽來全都像隨著一面牆紙，不具任何現實感。79 頁
12. その言葉は彼女にとって衝撃的だった。75 頁	12. 小雪這話衝擊著她，如天外飛來的隕石，一頭將她徹底擊潰。95 頁
13. 「ありがとう……」と、咽だした上で、何度も繰り返した。87 頁	13. 「謝謝、謝謝……」一聲一聲地重複著，宛如要撞進悠長時光的盡頭一般。109 頁
14. 降り傾る雨が地を叩く怒ガラスを叩き、何か乱暴な交響曲のように聞こえた。113 頁	14. 雨粒彷彿有彈珠般大，不斷不斷敲打著窗玻璃，聽著彷彿是某種粗暴的交響曲。137-138 頁
15. 結婚、彼女にとっては無縁の語だが、繪梨香は真剣に悩んでいるらしい。42 頁	15. 結婚，這對她而言還得從宇宙邊陲的小行星，但眼前的繪梨香卻都為這詞認真地煩惱著。59 頁
16. 彼女達はこれまで何度もそんな想像を練り、彼女も一緒に岩穴のシラバスと、大学周辺の独立系書店の情報を調べた。54 頁	16. 她們無數次一邊想著學術之城裡共度的未來，一邊瀏覽著課程網與大學周邊獨立書店的資訊。72 頁
17. 何かにつけて死に惹かれ、先のことを虚無視する彼女とは違い、小雪は二人のために将来のことも考えているのだ。55 頁	17. 她總想著死，未來對她而言不過是自己到不了的一片虛無空曠的荒野。但小雪與她不同，為了守護兩人的關係，小雪並不沈溺於當下，也不醉心於虛無，雙眼看著的是現實的未來。73 頁
18. 涙水模様の彼女の視線、就連那醜陋男子的臉都糊成一片歪斜的抽象畫。76 頁	18. 淚水模糊了她的視線，就連那醜陋男子的臉都糊成一片歪斜的抽象畫。76 頁
19. ショフィアは呆れたように言った。63 頁	19. 蘇菲亞一副小書沒辦法的樣子，如此答道。82 頁
20. お菓子を食ったり、紅白を纏ながら雑談したり、じゃれ合ったりで、過ごし方としては極めて普通だったが、それでも薫と一緒にいると、「幸せ」という言葉が頻りに脳裏を過るのだった。82 頁	20. 兩人吃著零食，一邊看紅白歌合戰一邊聊天，偶爾嬉笑打鬧，就像天下所有的戀人一般享受著平凡的兩人時光，待在小書身邊，「幸福」這個字眼就不斷掠過她的腦海，使她面癱。102 頁
21. 薄れてはいたはずのあの夜の光景がまた鮮明に甦り、彼女は思わず薫の手を払い除けた。22 頁	21. 那個夜晚穿巷的風景，她以為早已在大海彼岸褪色的記憶重又鮮明地甦醒，蒙太古奇裝如來期的回憶之流使她反射性地拍開了小書的手。108 頁
22. 雪のように白い返信用葉書から、幸せな香りを漂わせていた。120 頁	22. 一切都如夢似幻，就連那張調查出席意願的雪白明信片，也彷彿飄著淡淡的幸福香氣。146 頁
23. もとよりネットのできた繋がりだから、その気になれはいても簡単に断り切れる。119 頁	23. 她與小薰本就是浩瀚網海裡偶然相識的兩人，彼此回歸到自己的世界，緣分的絲線說斷即斷。145 頁
24. やっと思考を取り戻した瞬間、頭に入ってきたのは、今ならまだ世界の崩壊が阻止できる、私が止めてあげなければならない、という考えだった。127 頁	24. 等她終於回復思考能力之後，首先跳進腦海的，便是這樣一個念想、一種聲音：還來得及，世界的崩壞還來得及阻止，只有我能阻止，我必須阻止。153 頁
25. 投身自殺はこんな都会では難しいから、毒、銃か、刃物か。152 頁	25. 在這種大都市裡若沒門路，要跳樓自殺不太容易，所以可能是服毒？或者是用槍？刀？180 頁
26. 都心部に著くと更に驚いたのが、町中に溢れんばかりのレインボーフラッグだった。スーパー、デパート、公園、バー、タウンホールまでも、まるでクリスマスのデコレーションのように、至る所にレインボーフラッグが飾り付けられていた。159 頁	26. 到市中心地更驚訝地發現，這城市滿溢著七彩彩虹旗，不論是超市、百貨公司、公園、酒吧、甚至市政廳，全部都黏著大大小小的彩虹旗或是彩虹圖樣，宛如聖誕節的聖誕裝飾一般。188 頁
27. 再び意識が甦った時、光源は消えていて周りは暗かった。171 頁	27. 意識從睡眠的深海之中再次浮現時，光源已然消失，周遭一片漆黑。201 頁

K 中国語と日本語の同じ情景に対する異なる表現習慣（意識）

1. 「人類が滅亡してくれないかな？」4 頁	1. 「人類早點滅亡就好了。」19 頁
2. そこには見えない、けれど決して越えられない壁のようなものがあるように感じられた。5 頁	2. 彷彿有一道雖然眼不可見，卻永遠無法跨越的高牆橫阻在她的前方似的。19 頁
3. 夜空を背景に、ガラス張りの壁の中に映っているもう一人の自分に、彼女は囁き声でそう問いかけてみた。9 頁	3. 望著以夜空為背景映在玻璃落地窗中的另一個自己，她如此輕聲問道。24 頁
4. 両親が提供した「震災の後からこうなった」という証言が先生をミスリードしたのか、先生もまた、地震の恐怖体験が原因だと思いついてみた。20 頁	4. 「她從地震之後就突然變這樣了」。父母提供給諮詢師的資訊似乎誤導了諮詢師，因此似乎就諮詢師認為地震的驚嚇才是主因。36 頁
5. 何故台湾の友達と飲みに行くのと「インターナショナル」なのか、何故「インターナショナル」を褒め言葉のように使っているのか、彼女には分からない。28 頁	5. 為什麼和台灣友人喝酒會是一個「國際化」的行為，而「國際化」又為什麼是個褒義詞，那連她自己也明白。44 頁
6. これくらいの孤独と疎外感が彼女にはちょうど気持ち良かったし、三毛、邱妙津、芥川龍之介、太宰治、三島由紀夫の作品にも同質の孤独を感じた。31 頁	6. 對她而言這種程度的孤獨恰恰到好處，她在三毛、邱妙津、芥川龍之介、太宰治、三島由紀夫的作品裡也感受到相近的孤獨。47-48 頁
7. 日本語を喋る時は偶に言葉を抑留せず、口にはしたくないような本心まで漏れることがある。4 頁	7. 說日文時就是這樣，有時候管不住嘴，心裡所想的還來不及過濾，便衝口而出了。19 頁
8. 繪梨香は大学一年生の夏休みに事故に遭い、それ以来片足が悪いという。7 頁	8. 繪梨香在大學一年級時出了場車禍，從那之後就跛著一隻腳。22 頁

9. 繪梨香はただにかみ、首を横に振りながら、「いいえ、私より大変な人も沢山いる」と答えた。8頁	9. 而繪梨香只是羞怯地笑著說道：「不會，很多人都比我還辛苦得多。」23頁
10. しょちゃんは彼女と同じ年の台湾人だが、大学を卒業してすぐ来日した彼女と違い、しょちゃんは一旦台湾で就職し、日本に来たのは去年だった。14頁	10. 小書與她相同年紀，都是台灣人，但她是在大學畢業後立刻來到日本，小書則是在台灣先工作了一陣子，去年才來的日本。29-30頁
11. しょちゃんが来日したての頃に台湾のレスビアン掲示板で立てた「東京にいる圈内人募集！」というスレッドが、二人が知り合ったきっかけだった。15頁	11. 現在小書在東京一邊上著語言學校，一邊在找工作，小書剛來日本時，在頁TT拉板上發了一篇題為「有圈内人在東京嗎？」的文章，那便成了兩人相識的契機。30頁
12. 日本人から何度も訊かれたこの質問を、彼女はしょちゃんにぶつけた。前から訊きたかったのだ。16頁	12. 這個問題她自己已被日本人問過無數次，這次輪到她問小書了。她一直頗好奇小書的動機。31頁
13. 近年LGBTが注目を集め始めたと言っても、日本の「同志砂漠」という悪名はまだに名高い。16頁	13. 畢竟日本雖然近年來LGBT議題逐漸受到重視，但「同志沙漠」的惡名可不是那麼輕易就能洗清的。31-32頁
14. そう語るしょちゃんの目には、決して変わらない未来への恐怖と、変化のきっかけは自分で創ろうという積極性が共存しているように見えた。17頁	14. 她望著小書的雙眼，在那眼裡她彷彿同時看到了對一成不變的未來的恐懼以及變化的契機必須由自己來創造的那種積極光芒。33頁
15. 七月のある午後、照り付ける烈日の下で蟬時雨が響き渡る中、彼女は退屈凌ぎに卒業アルバムを手を取った。21頁	15. 某個七月午後，烈日毒辣，蟬噪如潮，百無聊賴之中她隨手翻了翻畢業紀念冊。37頁
16. 丹辰がピアノを弾けるのを知った先生が、一曲演奏してみたら？とリクエストした。22頁	16. 音樂老師得知丹辰會彈鋼琴，便要求丹辰演奏一曲。38頁
17. 休憩時間に、偶々カメラを持っていった誰かが、記念と一緒に写真を撮りたい、と丹辰に申し出た。他の二人もそれに乗った形で、四人で写真を撮ることになった。22頁	17. 下課時間，有同學剛好帶著相機，便向丹辰提議想一起拍張照作為留念，另外兩個同學隨即附和，於是便有了這張四人照。38頁
18. 「レイクエム」がモーツァルトの自分への冥途の餞だとしたら、丹辰は手向けとして何を持っていったのだろうか。23頁	18. 若《安魂曲》是莫札特為即將踏上冥途的自己所作的餞別之曲，那麼丹辰又為自己選擇了什麼。39頁
19. 丹辰への想いと、丹辰の死について、詩を書いた。23頁	19. 她寫了一首短詩，訴說了她對丹辰的思念，記錄了丹辰的死亡。39頁
20. 繪梨香は彼女のことを知らない。彼女の過去やセクシュアリティは勿論、一か月前、彼女が薫に汚物を見るような眼差しで睨み付けられ、こっぴどく振られたことも、繪梨香は知らないのだ。29頁	20. 繪梨香從沒真正認識她。她的過去，她的性向，她在一個月前才被小薰像個醜態東西般狠狠甩掉，這一一切，繪梨香都不得而知。45頁
21. 田舎の中学校は知名度を上げるために、学校としての業績、つまり名門高校に進学する生徒数を増やす必要がある。30頁	21. 鄉下國中為了提高知名度必須死命拚業績，而這項業績也就是考上明星高中的學生數。46頁
22. あの緑に満ちる字ひきで、彼女は楊梅膏と出会った。32頁	22. 在那一片乾淨亮眼的綠裡，她結識了楊梅膏。48頁
23. 「よくないけど、それが迎梅の望みだったら、私の存いで止めようと思うことこそ傲慢でしょ」35頁	23. 「當然在乎，但倘若妳真的活著了，我還要因自己的在乎而阻止妳，那也未免太傲慢了。」52頁
24. 「嫌ならちゃんと生きて、七十歳まで一緒に生きよう。36頁	24. 「那就為我好生活著。52頁
25. 「じゃ、意味を見つけるまでは死んじやいけないね。二人とも」38頁	25. 「那，在我們尋得意義之前，誰也不准死，說好了的。」55頁
26. もし彼女の日本語力が狂っていなければ、今の繪梨香の言葉には確かな嫉妬と皮肉が含まれているはずだ。43-44頁	26. 如果她的日語能力沒有失常，還值得信任的話，那她從繪梨香的話語裡聽出的嫉妒與諷刺，就是確實實實在在的。61頁
27. 彼女からすれば、生きているということは押しなべて偶然に過ぎないのだ。4頁	27. 在她看來，所謂「活著」不過是一種偶然所造成的結果罷了。19頁
28. 彼女よりもよって彼女を養むという不毛極まりないことに、必死になるのか。45頁	28. 為什麼繪梨香別的事不好做，偏偏就要在「養著她」這種毫無意義的事上用力？62頁
29. フェスタでは様々な団体がブースを出店し、飲食物やアクセサリーなどを販売しており、ステージでも様々なパフォーマンスが上演されていた。60頁	29. 嘉年華會上有許多團體出來擺攤，賣飲料食物的，賣項鍊飾品的都有；一旁舞台上藝人團體唱唱跳跳，上演各種表演。60頁
30. 仲直りできたのは嬉しかったけれど、それと同時にどこか寂しく感じている自分に、彼女は気付いた。65頁	30. 她雖然很高興能與繪梨香言歸於好，卻又發現自己其實無法全心全意地感到開心，內心一角有著些許落寞。83-84頁
31. ネットで知り合った人とすぐに会いたくなるような性格ではないので、知り合ってから暫くはメッセージのやり取りを繰り返した。一か月ほどしてやっと薫から誘われ、二人で一緒に美術館に行くことになった。79頁	31. 她與小薰都不是那種過慣了速食文化、喜歡和網路認識的人速戰速決立即見面的性格，因此兩人透過網路訊息互雁往返多次，過了約莫一個月後，小薰邀她一起去逛美術館，她人才第一次見面。98-99頁
32. 美大出身、美術の専門学校に講師として勤める薫は、特に西洋美術に精通していて、展示作品について事細かに彼女に説明した。80頁	32. 小薰畢業於藝術大學，現在在美術專門學校擔任講師，對於西洋美術尤其精通，對每一幅展覽作品都能向她解說上好幾分鐘，她也因此獲得了許多相關知識。100頁
33. 付き合おうという明確な示し合わせこそ無かったものの、友達を超えた間柄という暗黙の了解が、二人の間にはあるように思えた。80頁	33. 雖然沒有明講要交往，但她了然於心，知道兩人之間有種默契，即使沒有明確的言語約定，兩人的關係依舊已經超越了一般友誼。100頁
34. ここは私の家なのに、と少し可笑しく思ったが、彼女は薫の誘いに応じた。84頁	34. 真主動，這種可是我我家耶。她一邊在心裡苦笑，一邊回應著小薰的邀請。105頁
35. 承棟のルームメイトは誰もいなかったから、私達は部屋を独占し、夜食を食べながらトランプをしたり手話を練習したりして盛り上がった。108頁	35. 回到承棟宿舍時，承棟的室友都不在，我們便霸佔了整間房間，一邊吃宵夜，一邊玩撲克牌或練手語，鬧得不亦樂乎。132頁
36. 場内を賑わす溢れんばかりの女子を見るとき、たった一人の人間に否定されたって大したことではないと、思うことさえできた。9頁	36. 當地望著會場內數不盡的女孩，甚至覺得自己不過是遭到一人否定，沒什麼大不了。56頁
37. 小雪は彼女の肩から頭を離し、今度は彼女を軽く抱いて、頭を撫でた。56頁	37. 小雪把頭離開她的肩膀，輕輕地抱住她，撫摸著她的頭。75頁
38. 小雪二人だから、いち感づいたに時間も場所も選ばないし、見られていても少しも怯まない。61頁	38. 不大在意周遭眼光，聊賴我我不挑時間地點，被人看著也不怯場害臊。79頁
39. 「続けるに決まってるよ。結婚のために仕事を辞めるとか、私には有り得ないね。もう二十一世紀だよ」43頁	39. 「當然不會，結了婚就得辭掉工作，這哪門子的道理，我們是活在二十一世紀沒錯吧？」60頁
40. 彼女としては、そもそも結婚できないのだから「有り得ない」と断るののが当たり前なのだが、悩んでいる繪梨香の気持ちを考えると、もう少し柔らかい言葉を選んだ方が良かったのかもしれない。43頁	40. 對根本無法結婚的她而言，當然沒有「結婚就得辭工作」的道理，但看繪梨香這樣煩惱，或許自己多少也應該考慮一下繪梨香的心情，在用詞上稍微斟酌一點吧。60頁
41. 繪梨香は彼女を見つめた。何か言わなければならない。カミングアウトせずに、繪梨香を安心させる言葉は――44頁	41. 繪梨香望向她。她不斷在腦中尋索，尋索著能不用出櫃，又能讓繪梨香安心的話語——62頁
42. それでも雨は降らない。小雪の瞳から流れ出てくる透明な雫が、彼女の肩を濡らしていった。53頁	42. 但雨就是不下，濡濕她肩膀的透明液體不來自天空，而是來自小雪晶亮的雙瞳。71頁
43. 私も心の中で決めたの。両親の期待に応えて、代わりに迎梅との関係も認めてもらおうって」54頁	43. 我也在心裡發過誓，要達成他們的期望，然後把迎梅正式介紹給他們，讓他們認可我們。」73頁
44. 小雪の顔が脳裏に浮かんだ。その美しい顔を思うと、心が身体より十倍百倍も痛んだ。58頁	44. 小雪的臉龐在她腦中浮現，多麼美麗的臉，一想起那張臉，心口就比身體痛上十倍百倍。76頁
45. 「そろそろお腹空いたでしょう。迎梅の好きな牛肉麺を作ったの。熱いからゆっくり食べなさい」69頁	45. 「肚子餓了吧，我做妳喜歡的牛肉麵，快趁熱吃。」88頁
46. 大学寮は四人部屋で、二十数平米の空間に下段が勉強机の木製ロフトベッドが四人入っている仕様だった。75頁	46. 大學宿舍是四人房，二十幾平方公尺的空間裡擺了四張床位，上面是床，下面是書架，95頁都是木質的。95頁
47. 「大体、三途の川なんてものがあってたまるか。死が全ての終わりじゃなきゃ困る。死後の世界なんて要らない」83頁	47. 「再說了，我才不相信什麼三途川呢，死亡必須是一切的終結，我才不需要什麼死後世界。」104頁
48. 星光色の光が霞風景だと思ったのか、薫はシーリングライトを消した。86頁	48. 天花板上日光燈的光線太繁風景，小薰伸手抓起遙控器關掉了。107p
49. 通院のせいで「楚辞」は最初の週から欠席だった。94頁	49. 約好了今天回診，便跳掉了「楚辞」課。116頁
50. 目が覚めて、今日診察を予約していたことをふと思い出して、慌てて窓の方を見ると、外は既に真っ暗だった。112-113頁	50. 醒來時想起今天也預約門診，趕緊拉開窗簾，才發現窗外早已全黑。137頁
51. 「こんなこと言って良いかどうか分からないけど……私、迎梅の力になりたいと思う」117頁	51. 「我不知道我該不該這樣說，但我還是想說……如果妳願意的話，可以試著多依靠我一點。」142頁
53. 日記をこまめに読んで、彼女は考えた。119頁	53. 讀到這裡她放下了日記，思考著。145頁
54. しょちゃんももとより大雑把な性格で、プライバシーをあまり気にせず、SNSでどんどん位置情報を上げていたから、家と学校の住所はすぐ特定されたという。121頁	54. 由於小書本就粗枝大葉，對於個人隱私也不太在意，到處打卡的結果是傳了許多位置資訊到社群網站上，因此前女友立刻就掌握了小書住處和學校的地址。147頁
55. その不条理さに対抗する術が無いのなら、せめて逃避を運ぶ権利はあっていいはずだ。138頁	55. 若人類註定無法對抗生之荒謬，那麼最起码得選擇從生命逃遁的權利，總該是天賦的。165頁
56. それらの記憶を、この町の風景を、彼女は歩きながら咀嚼し、しつかり脳裏に刻んだ。142頁	56. 她一邊行走，一邊咀嚼著這些記憶、這些眼前的風景，企圖將它們深深銘刻在腦海中。169頁
57. 万里の長城から降りた時、雪が更に激しくなっていた。彼女は寒さに耐え切れず、道端にあるクンタッキーに入ろうとしたが、ふと「北門鎖鑰」の字が彫られた城壁の下に、一人の女性が城壁を見上げながら立ち戻っているのに気付いた。155頁	57. 從長城下來時，雪下得愈發猛烈，她不耐寒，正要走進路旁的肯德基取暖，突然發現刻著「北門鎖鑰」四字的城門之下有一女子兀立，獨自抬頭仰望著蒼涼的城壁。183頁
58. 「流石ね」160頁	58. 「真厲害，猜對了。」190頁
59. 「『人』ではない。貴女だからよ」173頁	59. 「不是『他人』，是妳呀，迎梅。」204頁
60. 「教えてくれて、ありがとう。……繪梨香は良い人だから、幸せでいてね」135頁	60. 「謝謝妳告訴我……祝妳幸福。」162頁
61. 長く日本に住んでいたせいで、旧暦はまるで意識しなくなった。155頁	61. 日本住久了，農曆是幾月幾日便都不太注意了。183頁
62. その四文字の響きは、今となっては懐かしくすら聞こえる。163-164頁	62. 如今，台大南字聽起來，甚至令她有種懷念的感覺。193頁
63. しかしシドニーでは、彼等は参加者として隊列に加わっていた。それが彼女にとって衝撃的だった。164頁	63. 但在雪梨，他們就是遊行的當事者，光明正大地走在遊行隊伍裡，這帶給了她不小的衝擊。194頁
64. 半球が違えば季節も違う、考えてみれば不思議なことだ。182頁	64. 跨越了赤道之後季節就不同了，細細想來還真是不可思議。214頁

L 意味の変更

1. 「いや、死にたいと思ったことなんて一度も無いよ。少なくとも小雪と出会ってからは。ただ何となく、長生きできないだろうなああと、心のどこかで思ってるだけ」50頁	1. 「我可從沒想過死，充其量只是想著死而已。至少，在認識妳之後都是這樣。」她回答道，「不過我心中總有一種感覺，覺得自己大概是長命不了的。」68頁
2. 「久しぶりに台湾人の男とやりたいなあとと思ってアプリでパコ友を探して、いき会ってみたい、なんだお前から」って感づいた。161頁	2. 「平常幹慣了洋人，想說好久沒幹台灣人了，就上A頁頁找砲友見了面才發現，幹，怎麼是你！」191頁